

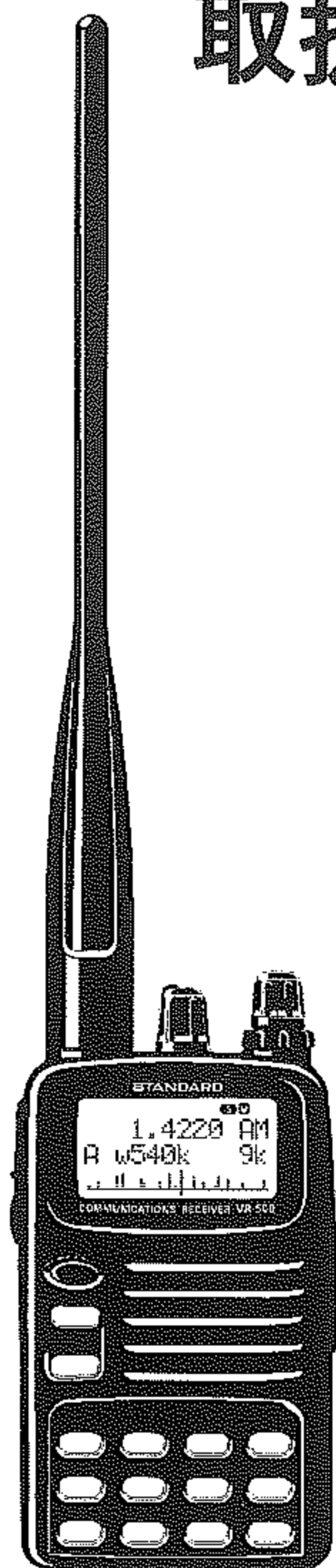


STANDARD

COMMUNICATIONS RECEIVER

VR-500

取扱説明書



安全上のご注意

1

ご使用の前に

3

基本的な操作のしかた

6

メモリーを使う

12

バンドスコープ

20

スマートサーチ

21

デュアルレシーブ

22

プライオリティワッチ

23

拡張操作

24

資料

36

当社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この「取扱説明書」を良くお読
みください。

お読みになった後は、大切に保管してください。

目次

安全上のご注意	1	メモリーチャンネルの 内容を入れ替える	18
ご使用の前に	3	メモリーチャンネルの内容を消す	18
付属品&オプション	3	メモリーバンク内の メモリーチャンネルをコピーする ..	19
受信前の準備	4	メモリーバンク内の メモリーチャンネルを入れ替える ..	19
乾電池を入れる	4	メモリーバンク内の 全メモリーチャンネルを消す ..	19
アンテナを取り付ける	5	バンドスコープ	20
ハンドストラップと ベルトクリップを取り付ける...	5	スマートサーチ	21
基本的な操作のしかた	6	デュアルレシーブ	22
各部の名前と働き	6	プライオリティワッチ	23
ディスプレイの説明	6	拡張操作	24
信号を受信する	7	周波数ステップを変更する	24
周波数のあわせかた	7	受信感度を下げる	24
受信するモード（電波型式）のあわせかた ..	7	強い信号だけを受信する	24
周波数サーチ	8	周波数などが変わらないようにする...	25
受信できる全ての周波数をサーチする...	8	照明ランプが自動的に 点灯しないようにする	25
周波数範囲を指定してサーチする	9	リセットのしかた	25
サーチしたくない周波数をスキップする...	10	乾電池を長く持たせる	26
プリセットモード	11	操作音を鳴らないようにする	26
プリセットモードの呼び出し	11	Sメーターの表示パターンを変更する ..	26
プリセット周波数を呼び出す	11	自動的に電源をONにする	27
メモリーを使う	12	自動的に電源をOFFにする	27
メモリー操作	12	電源をONにしたときの メッセージを変更する	28
メモリーチャンネルに書き込む	12	スケルチが開くときのノイズを低減する...	28
メモリーチャンネルを呼び出す	12	セットモードの項目一覧表	29
メモリースキャン	13	セットモードの機能別一覧表	30
全てのメモリーチャンネルを スキャンする	13	セットモードの動作一覧表	31
希望のメモリーチャンネルだけを スキャンする	14	クローン機能	35
プリファレンシャル メモリースキャン (PMS)	14	資料	36
モードスキャン	14	オートステップ・オートモード関係表 ..	36
メモリーバンクスキャン	15	定 格	37
メモリーチャンネルの編集	16	索 引	38
メモリーチャンネルに名前をつける	16	キー操作早見表	40
メモリーチャンネルを名前で呼び出す ..	17	故障かな?と思ったら	表 3
空いているメモリーチャンネルの 数を確認する	17		
メモリーチャンネルの 内容をコピーする	18		

安全上のご注意 (必ずお読みください)

本機を安全に正しくお使いいただくために、必ずお読みください。

お客様または第三者の方が、この製品の誤使用・使用中に生じた故障・その他の不具合あるいはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

マークの種類と意味



危険

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容および物的障害のみの発生が想定される内容を示しています。

図記号の種類と意味



本機を安全にお使いになるために、行ってはならない禁止事項です。
たとえば、㊦は分解禁止を示しています。



本機を安全にお使いになるために、必ず守っていただきたい注意事項です。

⚠ 危険



病院内や医療用電子機器の近くでは使用しないでください。
医療用電子機器に影響を与える場合があります。



車でご使用になる場合には、運転者は走行中に各種の設定操作は絶対に行わないでください。
走行中に運転者が、本機のディスプレイに気を取られたり、操作に迷ったりすると大変危険です。



乾電池から漏れている液などに素手で振れないでください。
皮膚に付着したり、目に入ると化学火傷を起こすおそれがあります。
この場合、直ちに医師の診断を受けてください。



外部アンテナを使用している時に雷が鳴り出したら、早めにPWRスイッチを切り、アンテナケーブルを本機から外してください。
雷によっては、火災や感電・故障の原因になります。

安全上のご注意 (必ずお読みください)

警告

安全上のご注意



水のかかる場所で使用したり、濡れた手で触らないでください。
故障や感電などの原因になります。
誤って濡らした場合には、すぐに乾いた布などで拭いてください。



当社指定以外のACアダプターや電源ケーブルは使用しないでください。
火災や故障の原因になります。



分解や改造をしないでください。
ケガ・漏液・感電・火災・故障の原因になります。



使用済みの乾電池を、火の中に入れてください。
破裂して火災や火傷の原因になります。



“煙が出ている”、“変な臭いがする”などの異常状態のまま使用すると、火災や故障の原因になります。
すぐにPWRスイッチを切り、乾電池を抜いてください。
煙や変な臭いなどが出なくなったことを確認の上、お買い上げいただきました販売店またはサービスに修理をご依頼ください。



指定された電源電圧以外の電圧では使用しないでください。
火災や感電の原因になります。

注意



アンテナを持って、本体を振り回したり投げたりしないでください。
本人や他人に当たり、ケガの原因になります。また、本体の故障や破損の原因にもなります。



人の多い場所では使用しないでください。
アンテナが他人に当たり、ケガの原因になります。



本機を直射日光の当たる場所や熱器具の付近に置かないでください。
変形・変色などの原因になります。



本機を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
火災や故障の原因になります。



本機をぐらついた台の上や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、ケガの原因になることがあります。



シンナーやベンジンなどでケースを拭かないでください。
ケースの汚れは中性洗剤を湿した布で軽く拭いて汚れを落とし、乾いた布で拭き取ってください。



長期間ご使用にならない場合には、安全のため、PWRスイッチを切るとともに、乾電池を抜いてください。



磁気カードやビデオテープなどは本機に近づけないでください。
キャッシュカードやビデオテープなどの内容が、消去される場合があります。



イヤホンやヘッドホンなどを使用するときは、音量を大きくしないでください。
聴力障害の原因になります。



小さなお子さまの手の届かない場所に保管してください。
ケガなどの原因になります。

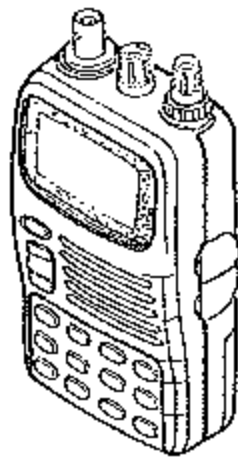


乾電池は、端子にテープなどを貼って絶縁してから破棄してください。



ハンドストラップやベルトクリップの取り付けは確実に行ってください。
間違った取り付けかたは、落下によるケガや本体の破損などの原因になります。

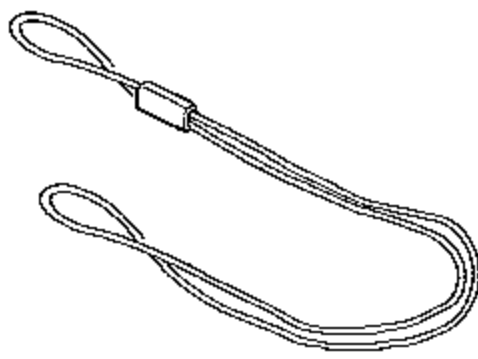
付属品



本体



アンテナ



ハンドストラップ



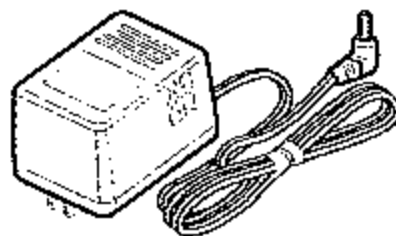
ベルトクリップ

- ・取扱説明書
- ・保証書
- ・ご愛用者カード

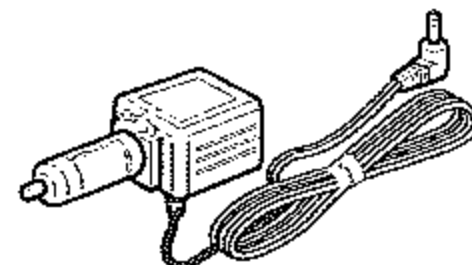
保証書に、お買い上げになりました販売店名と日付が記入されていることを、ご確認ください。

ご使用の前に

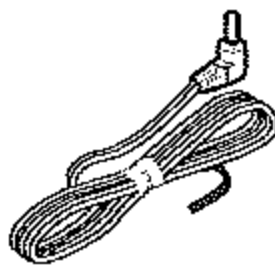
オプション



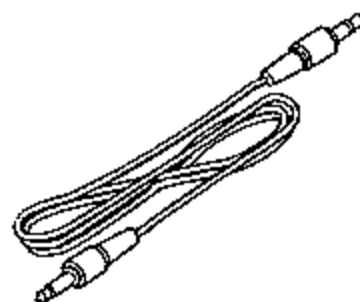
"NC-60A"
AC アダプター



"E-DC-5B"
シガープラグ付き外部電源アダプター



"E-DC-6"
外部電源ケーブル



"CT-35"
クローンケーブル

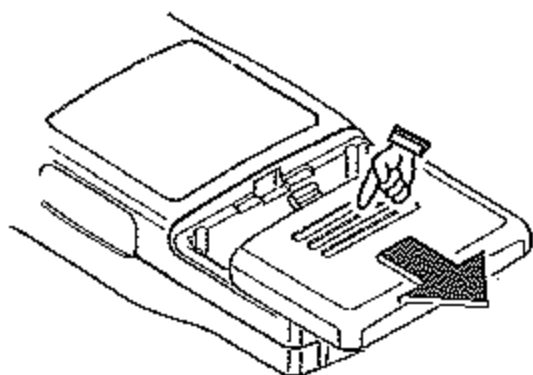


"CSC-72"
ソフトケース

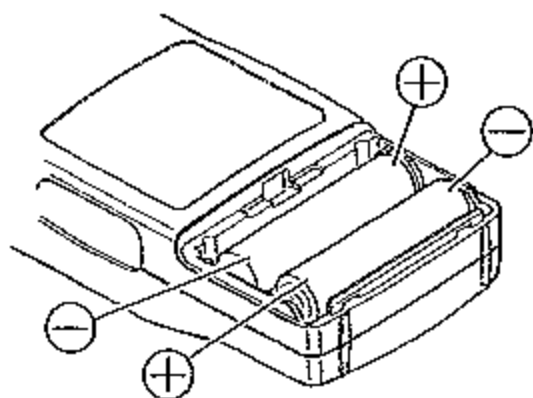
受信前の準備

乾電池を入れる

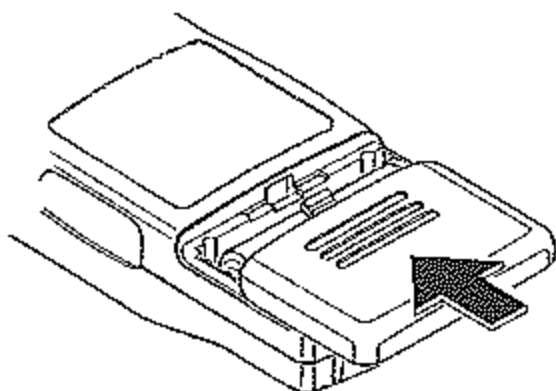
1. 電池カバーの“”で示す部分を押しながら、手前にスライドさせて開けます。



2. 極性を間違えないように注意し、乾電池を入れます。



3. “カチッ”と音がするまで電池カバーをスライドさせて閉めます。



- 長時間使用しない場合は、乾電池を取り外しておいてください。
- ときどき端子や電極を乾いた布や綿棒で拭いてください。端子や電極が汚れていると、接触不良になって正しく使用できないばかりではなく、発熱や破裂などの原因になります。
- 危険ですので、使用済みの乾電池は、火の中などに入れないでください。
- 乾電池を交換するときは、電源を切ってください。
- 古い乾電池と新しい乾電池を混ぜて使用すると、乾電池の寿命を短くすることがあります。

使用時間の目安

使用できる時間の目安は次のとおりです。

アルカリ乾電池  約20時間

マンガン乾電池  約8時間

※上記の使用時間は目安ですので、実際に使用できる時間は、使いかたや温度などによって異なります。

電池がなくなると、ディスプレイに電池マークと“Low Battery”が点灯しますので、すみやかに新しい乾電池と交換してください。



外部電源使用時の注意事項

EXT DC 端子に外部電源を接続する場合は、必ずオプションのACアダプター“NC-60A”または外部電源ケーブル“E-DC-6”、シガープラグ付き外部電源ケーブル“E-DC-5B”を使用してください。

- 当社指定のACアダプターや電源ケーブル以外は絶対に使用しないでください。火災や故障の原因になることがあります。

- 電源ケーブルの接続、取り外しを行うときには、必ず電源を切ってください。

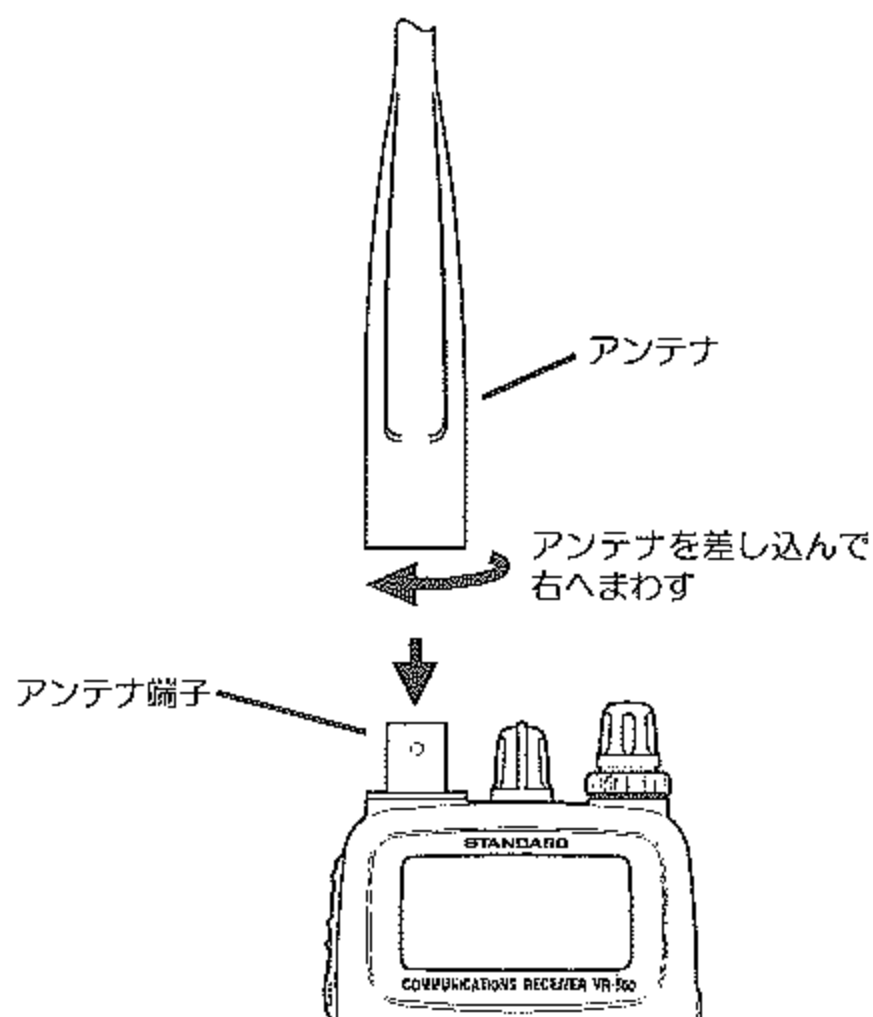
なお、外部電源ケーブル“E-DC-6”を使用するときには、次の点に注意してください。

- 電源電圧が定格値（直流9.0～13.8V）を超えないこと。
- 外部電源ケーブル“E-DC-6”と電源のプラス（+）、マイナス（-）を間違えないこと。（“E-DC-6”の白黒線をプラス、黒線をマイナスに接続してください。）

アンテナを取り付ける

アンテナの下部（コネクター部）を持って、本体アンテナ端子へ接続します。

- アンテナの取り付け / 取り外し時には、アンテナの上部を持ってまわさないでください。アンテナの内部で断線する場合があります。
- 本機のアンテナ部分が誤って目にさされないようにしてください。
- アンテナを持って、本機を持ち歩かないでください。

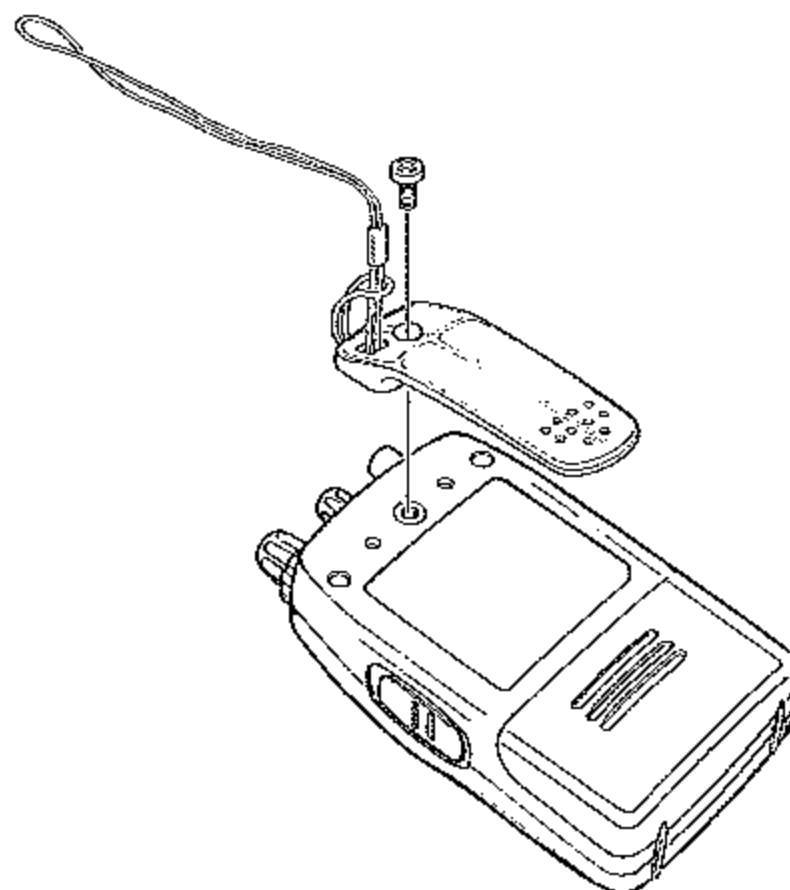


1 使用前に

ハンドストラップとベルトクリップを取り付ける

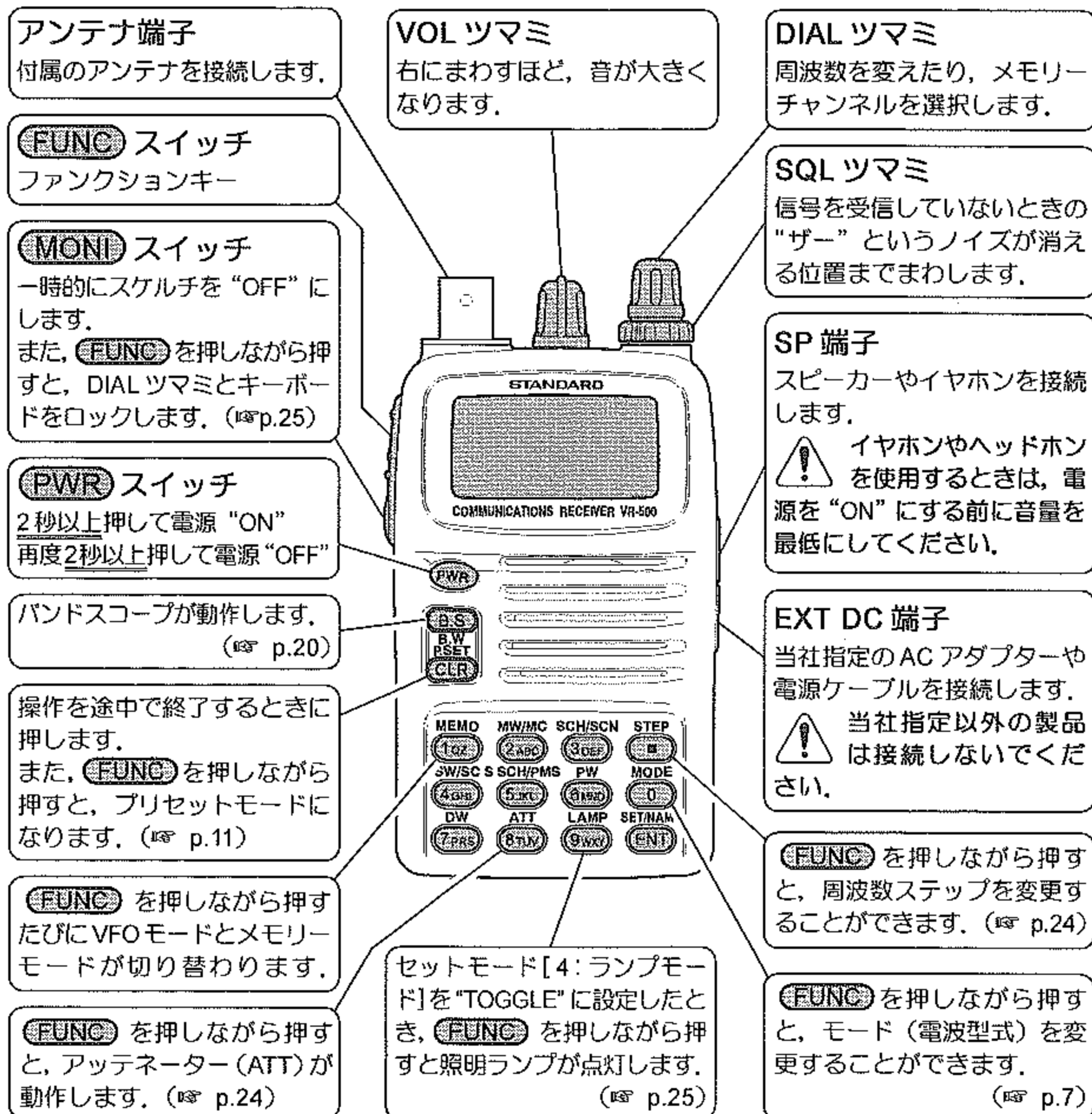
図のようにベルトクリップにハンドストラップを通し、本体に取り付けます。

- ベルトクリップの固定には、必ず付属のビスを使用してください。
他のビスを使用すると、しっかり固定できなかったり、本機の内部に損傷を与える場合があります。

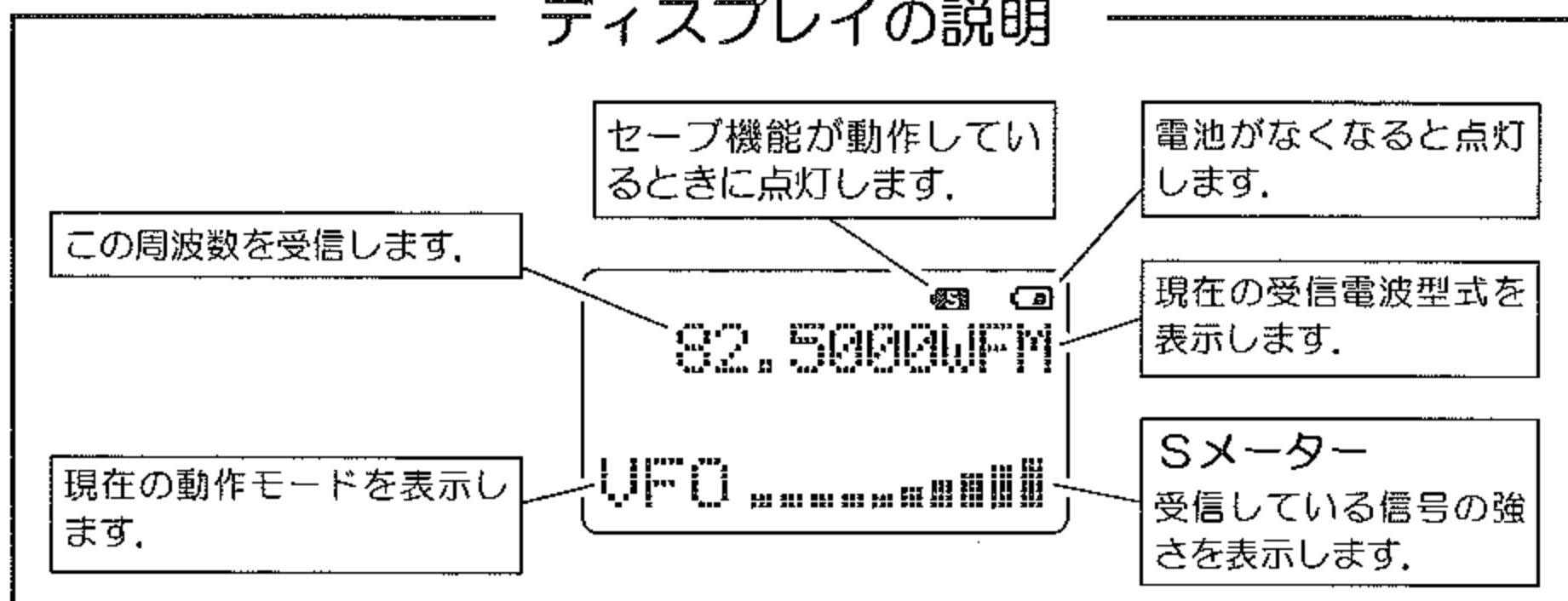


各部の名前と働き

基本的な操作のしかた



ディスプレイの説明



本機は、お買い上げになった時にはオートモード・オートステップが設定されています。受信したい周波数にあわせると、自動的にその周波数に最適なモード（電波型式）とステップ幅に設定されます。

周波数のあわせかた

■ DIAL ツマミをまわす

右にまわすと周波数は高くなり、左にまわすと低くなります。

○ 受信するバンドやモード（電波型式）に適したステップ幅で周波数が変化します（オートステップ機能）。

○ **[FUNC]** を押しながら DIAL ツマミをまわすと、1MHz 単位（受信モードが NFM/WFM/AM の場合）、または 1kHz 単位（受信モードが LSB/USB/CW の場合）で変化します。（ファーストステップ機能）。

■ キーボードから入力する

キーボードから周波数を直接入力することができます。

《例》81.3MHz の場合：**[8]**⇒**[1]**⇒**[.]**⇒**[3]**⇒**[ENT]**

594kHz の場合：**[.]**⇒**[5]**⇒**[9]**⇒**[4]**⇒**[ENT]**

○ 周波数を変更すると、モード（電波型式）も自動的に“受信周波数に適したモード”に切り替わります（オートモード機能）。

○ DIAL ツマミやキーボードで、周波数を自由に設定できる状態を“VFO モード”といいます。

● 本機で受信することのできる周波数範囲は、0.1MHz ~ 1300MHz ですが、右表の周波数帯は受信することができません。

● 無線通信の内容を窃用したり、他人に漏らすことは、法律により禁止されています。

253MHz ~ 256MHz	810MHz ~ 835MHz
262MHz ~ 267MHz	843MHz ~ 846MHz
271MHz ~ 276MHz	860MHz ~ 890MHz
380MHz ~ 383MHz	898MHz ~ 901MHz
412MHz ~ 416MHz	915MHz ~ 961MHz

受信するモード（電波型式）のあわせかた

受信している信号にあわせて、モード（電波型式）を変更することができます。

[FUNC] を押しながら **[0]** を押すたびに、モード（電波型式）が以下のように切り替わります。



○ 工場出荷時は、自動的に受信周波数に適したモードに切り替わる“AUTO（オートモード）”に設定されています（セットモード[1:ジュシンモード]）。なお、“MANUAL”に設定すると、周波数を変更しても、同一の設定した受信モード（電波型式）のままになります。

オートモード時の、受信周波数とモード（電波型式）の関係は、オートステップ・オートモード関係表をご覧ください。（p.36）

○ オートモードが設定されているときにモードを変更をしたときは、次にその周波数帯にあわせると、変更したモードが呼び出されるようになります。ただし、電源を“OFF”にすると、再び“受信周波数に適したモード”に戻ります。

○ LSB/USB または CW モードを選択した場合、ファーストステップは 1kHz になります。

周波数サーチ(1)

受信できる全ての周波数をサーチする (セットモード12: VFOサーチ)

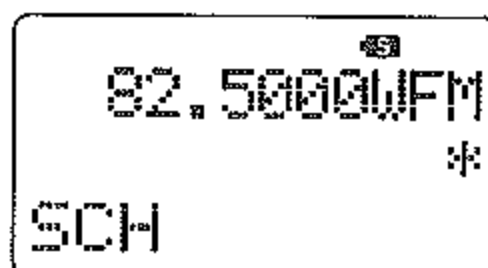
0.1~1300 MHzの範囲にある“信号がある周波数”を自動的に探す(サーチする)ことができます。

1. VFOモードにします。

CLRを押すとVFOモードになります。

2. **FUNC**を押しながら**3**を押します。

“SCH”が表示され、表示している周波数より上方向(周波数が高くなる方向)にサーチを開始します(0.1~1300 MHzの範囲をサーチします)。



信号を受信するとサーチは一旦停止し、5秒後にサーチを再開します。

○サーチがバンドエッジ(1300MHz)に達したときには、反対側のバンドエッジ(0.1MHz)に移り、サーチが繰り返されます。

○再度**FUNC**を押しながら**3**を押すと、信号を受信して停止したときのサーチの再開する条件を変えることができます。

○DIAL ツマミを1クリックまわすと“SCH”が点滅し、サーチが一旦停止します。

○サーチが停止しているときにDIAL ツマミを右へ1クリックまわすと上方向(周波数が高くなる方向)へ、左へ1クリックまわすと下方向(周波数が低くなる方向)へサーチを再開します。

○サーチする方向を変更した場合、次にサーチを開始するときには、この“変更した方向”にサーチを開始します。

3. **CLR**を押すとサーチは中止します。

VFOモードに戻ります。

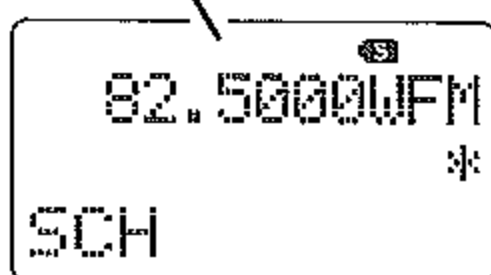
基本的な操作のしかた

サーチまたはスキンの再開する条件

信号を受信してサーチまたはスキンの再開したときの、“サーチまたはスキンの再開する条件”を、以下の3種類から選択することができます。

タイムサーチ/タイムスキン
(表示なし)

選択時表示なし

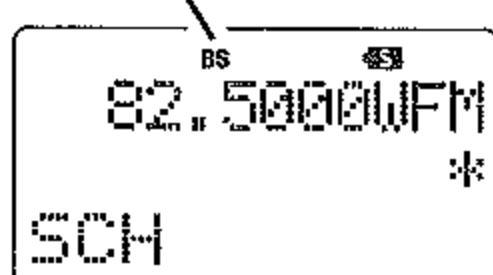


サーチまたはスキンの再開が一旦停止したあと、信号の有無にかかわらず5秒後にサーチまたはスキンの再開します(工場出荷時)。

なお、この“停止している時間”はセットモード[8:ポーズディレイ]で変更することができます。

ビジーサーチ/ビジースキン
(BS)

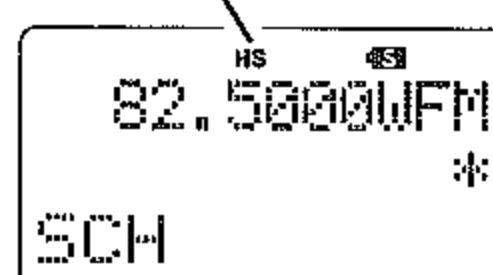
選択時点灯



信号がなくなるまで受信し、信号がなくなると約2秒後にサーチまたはスキンの再開します。

ホールドサーチ/ホールドスキン
(HS)

選択時点灯



サーチまたはスキンの再開する場合は、DIAL ツマミを1クリックまわします。

周波数範囲を指定してサーチする (セットモード 12: LIMITサーチ)

希望する周波数範囲をサーチすることができます。

あらかじめセットモード[12:サーチモード]を“LIMIT”に設定しておきます。(p.32)

■希望する周波数範囲をサーチする

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. 希望する周波数範囲の下限周波数に設定します。
3. FUNC を押しながら 3 を 2 秒以上押します。
“SCH A Write!” と表示されて下限周波数が設定され、VFO モードに戻ります。
4. 手順 2)、手順 3) と同じ要領で、上限周波数を設定します。
“SCH B Write!” と表示されて上限周波数が設定され、VFO モードに戻ります。

● 上限周波数と下限周波数に同じ周波数を設定すると、サーチすることができません。

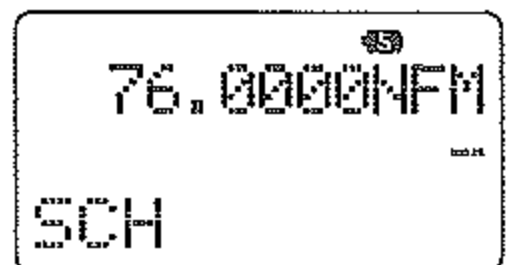
◎ 以上で周波数範囲が設定されましたので、以下の操作でサーチを開始します。

5. FUNC を押しながら 3 を押して、サーチを開始します。

“SCH” が表示されて設定した周波数の間を上方向（周波数が高くなる方向）にサーチしていき、信号を受信するとサーチは一旦停止します。

○ サーチの動作や停止したときの再開条件などは、前ページの「受信できる全ての周波数をサーチする」と同じです。

6. CLR を押すとサーチは中止します。(VFO モードに戻ります。)



■あらかじめ設定されている周波数範囲を呼び出しサーチする

① から ⑨ の各キーには、あらかじめ下表に示す周波数範囲が割り当てられています。これを“サーチバンドメモリー”といい、この周波数範囲を呼び出してサーチすることができます。

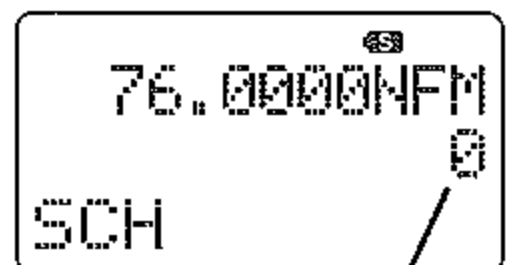
1. サーチを開始させます。(FUNC を押しながら 3 を押す。)
2. 呼び出したいサーチバンドメモリー番号のキーを押します。

押したキーに割り当てられている周波数範囲が呼び出され、サーチを開始します。

3. CLR を押すとサーチは中止します。

VFO モードに戻ります。

○ サーチバンドメモリーに書き込まれている周波数範囲は、セットモード[13:サーチハニイ]で確認することができます。



サーチバンドメモリー番号

■周波数範囲をサーチバンドメモリーに書き込む

サーチバンドメモリーに書き込まれている周波数範囲を、書き換えることができます。

1. 上記の『希望する周波数範囲をサーチする』ときと同じ要領で周波数範囲を設定し、サーチを開始させます。

2. 割り当てたいキーを 2 秒以上押します。(指定したサーチバンドメモリーに書き込まれます。)

キー	周波数範囲 (MHz)	参 考
①	76 0000 ~ 107 7500	FMラジオ・テレビ音声
②	108 0000 ~ 142.0000	航空無線
③	144.0000 ~ 146.0000	アマチュア無線
④	146 0100 ~ 154.6500	業務無線
⑤	156.0000 ~ 162.0500	船舶無線
⑥	175 7500 ~ 221 7500	テレビ音声
⑦	430 0000 ~ 440.0000	アマチュア無線
⑧	450 0125 ~ 451.5000	タクシー無線
⑨	850 0125 ~ 859.9875	MCA無線
⑩	903 0375 ~ 904.9875	パーソナル無線
⑪	「希望する周波数範囲をサーチする」で設定した周波数範囲を呼び出します。工場出荷時は、「0.1000MHz ~ 1300.0000MHz」が呼び出されます。	

周波数サーチ(3)

サーチしたくない周波数をスキップする

サーチをしているとき、受信したくない周波数でもサーチが止まることがあります。このような周波数はあらかじめ設定しておくことで、サーチ中にその周波数を受信しないことが可能となります。この設定するメモリーを“スキップメモリー”といい、100チャンネル（チャンネル番号 S00～S99）あります。

■サーチしたくない周波数を設定する

1. **FUNC** を押しながら **3** を押します。

サーチを開始します。

2. サーチ中、受信したくない周波数で停止したら、**FUNC** を押しながら **4** を押します。

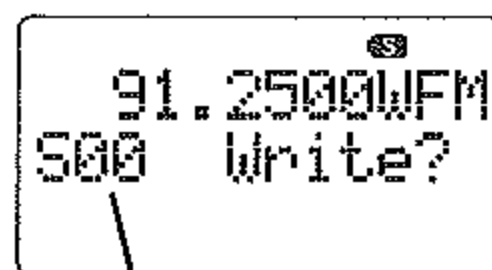
何も書き込まれていない最も小さい番号のスキップメモリーが表示されます。

3. 再度 **FUNC** を押しながら **4** を押します。

スキップメモリーへの書き込みが完了し、サーチが再開します。

○あらかじめサーチしたくない周波数をスキップメモリーへ書き込んでおくこともできます。この場合、手順1) のかわりに VFO モードで周波数をあわせ、手順2)、手順3) を行います。

○全てのスキップメモリーに周波数書き込まれているとき、さらに周波数を書き込もうとすると、“S__ FULL!” と表示されます。このとき、キーボードで希望するスキップメモリー番号（2桁）を入力すると、指定したスキップメモリーチャンネルは、新しい周波数に書き替わります。



書き込まれる
スキップメモリー番号

■スキップメモリーを消す

不要なスキップメモリーの内容を消すことができます。

1. **FUNC** を押しながら **1** を押して、スキップメモリーを呼び出します。

2. DIAL ツマミをまわして消したいスキップメモリーを選択します。

3. **FUNC** を押しながら **4** を押します。

“Clear?” が表示されます。

4. 再度 **FUNC** を押しながら **4** を押します。

スキップメモリーの内容が消去されます。

○続けて他のスキップメモリーの内容を消すには、手順2) から手順4) を繰り返します。

●消したスキップメモリーの内容を復活させることはできません。

5. **CLR** を押すと VFO モードに戻ります。



プリセットモード

本機をプリセットモードにすると、あらかじめキーに割り当てられている周波数を、簡単に呼び出すことができます。なお、呼び出した周波数は、DIAL ツマミで変更することも可能です。

プリセットモードの呼び出し

[FUNC] を押しながら **[CLR]** を押します。

プリセットモードになります。

プリセットモードを解除するには、再度 **[FUNC]** を押しながら **[CLR]** を押します。



プリセット周波数を呼び出す

数字キーを押すと、下表に示す周波数が呼び出されます。

キー	周波数(MHz) モード(電波形式)	参 考	キー	周波数(MHz) モード(電波形式)	参 考
[1]	1.6200 AM	交通情報	[6]	145.0000 NFM	アマチュア無線
[2]	6.0550 AM	ラジオ短波(第一)	[7]	156.8000 NFM	海上無線
[3]	6.1150 AM	ラジオ短波(第二)	[8]	433.0000 NFM	アマチュア無線
[4]	82.5000 WFM	FMラジオ	[9]	903.5125 NFM	パーソナル無線
[5]	128.8000 AM	航空無線(気象)	[*]	TV 1ch WFM	テレビ音声
[0]	押すたびに、下記の周波数が順番に呼び出されます <pre> graph LR A["954 kHz (AM) [AMラジオ]"] --> B["6.0550 MHz (AM) [ラジオ短波(第一)]"] B --> C["80.0000 MHz (WFM) [FMラジオ]"] C --> D["128.8000 MHz (AM) [航空無線(気象)]"] D --> E["51.0000 MHz (NFM) [アマチュア無線]"] E --> F["145.0000 MHz (NFM) [アマチュア無線]"] F --> G["433.0000 MHz (NFM) [アマチュア無線]"] G --> H["1295.0000 MHz (NFM) [アマチュア無線]"] H --> A </pre>				

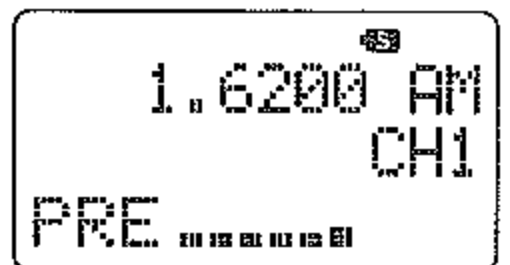
○ DIAL ツマミをまわすと周波数 (TV ch の場合はチャンネル) を変更することができます。

○ **[FUNC]** を押しながら **[0]** を押すとモード (電波型式) を変更することができます (TV ch は除く)。

○ 周波数やモード (電波型式) を変更したとき、キーを2秒以上押し続けることにより、そのキーに割り当てられていた周波数とモード (電波型式) を“変更した状態”に書き換えることができます。

○ **[FUNC]** を押しながら **[3]** を押すと、自動的に“信号がある周波数 (TV ch の場合はチャンネル) を探す”ことができます。また、信号を受信してサーチが停止したときに **[CLR]** を押すとサーチを中止し、その周波数 (TV ch の場合はチャンネル) を続けて受信することができます。

○ 周波数やモード (電波型式) を変更し、他のキーを押さずに電源を“OFF”にした場合、次に電源を“ON”にしたときには、“変更した状態”が呼び出されます。



プリセットモード時の注意

プリセットモード時には、以下の操作を行うことができません。

- セットモード“15”から“32”の操作
- デュアルレシーブ
- キーボードからの周波数入力
- メモリー操作
- プライオリティワッチ
- メモリースキャン
- スマートサーチ

メモリー操作

本機には、1000 チャンネル（チャンネル番号 000～999）のメモリーがあります。
メモリーを呼び出している状態を“メモリーモード”といいます。

メモリーチャンネルに書き込む

1. VFOモードにします。（**CLR**を押すとVFOモードになります。）
2. メモリーする周波数と受信モードを設定します。
3. **FUNC**を押しながら**2**を押します。

何も書き込まれていない最も小さい番号のメモリーチャンネルが表示されます。

○DIAL ツマミをまわしてメモリーチャンネル番号を指定することができます。

○**FUNC**を押しながらDIAL ツマミをまわすと、各メモリーバンクの一番始めのメモリーチャンネルを呼び出すことができます（例：023 → 100 → 200…）。

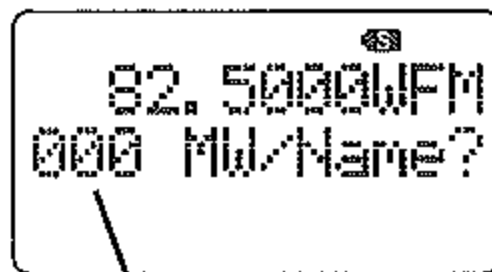
4. 再度**FUNC**を押しながら**2**を押します。

メモリーへの書き込みが完了し、VFOモードに戻ります。

○キーボードでメモリーチャンネル番号を直接指定して、メモリーに書き込みを行うことができます。この場合、手順1) から手順3) を行ったあとに、キーボードで希望するメモリーチャンネル番号（3桁）を入力します。メモリー番号を入力した時点で書き込みは完了します。

○すでに周波数が書き込まれているメモリーチャンネルへ再度メモリー書き込みを行うと、新しい周波数に書き替えることができます。なお、名前のついているメモリーチャンネルへ書き込みを行った場合には、その名前は消去されてしまいます。

○周波数サーチが停止中に、上記の操作でメモリーチャンネルへ書き込むこともできます。



書き込まれるメモリーチャンネル番号

メモリーチャンネルを呼び出す

1. **FUNC**を押しながら**1**を押して、メモリーモードにします。

“MR”とメモリーチャンネル番号が表示されます。

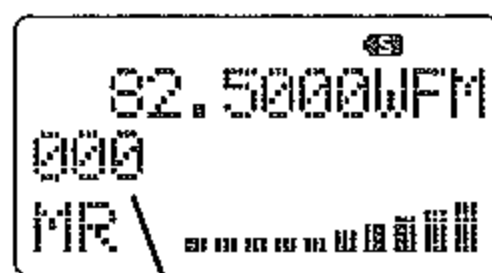
2. DIAL ツマミをまわして呼び出したいメモリー番号を選択します。

○キーボードでメモリーチャンネル番号（3桁）を入力することにより、メモリーチャンネルを直接指定して呼び出すこともできます。

○**FUNC**を押しながらDIAL ツマミをまわすと、各メモリーバンクに書き込まれている“最も小さい番号の”メモリーチャンネルを呼び出すことができます（例：023 → 101 → 200…）。

3. **CLR**を押すと、メモリーモードにする前の周波数でVFOモードに戻ります。

○**ENT**を押すと、メモリーチャンネルの周波数のままでVFOモードに戻ります。



メモリーチャンネル番号

注意：**FUNC**を押しながら**1**を押したときの動作について

スキップメモリーに周波数が書き込まれている場合と、書き込まれていない場合とでは、**FUNC**を押しながら**1**を押したときの動作が異なります。

- スキップメモリーに何も書き込まれていない場合：
“VFOモード”と“メモリーモード”が交互に切り替わります。
- スキップメモリーに周波数が書き込まれている場合：
“VFOモード” → “メモリーモード” → “スキップメモリーモード” → “VFOモード” …
と順番に切り替わります。

信号があるメモリーチャンネルを自動的に探すことができます。

全てのメモリーチャンネルをスキャンする

1. メモリーモードにします。(FUNC を押しながら ① を押す。)

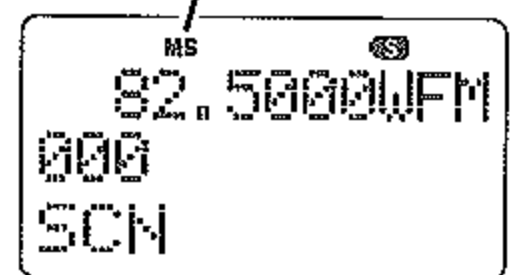
"MR" が表示されます。

2. FUNC を押しながら ③ を押します。

"MS" が表示され、メモリーチャンネル番号が大きくなる方向にスキャンを開始します。

信号を受信するとスキャンは一旦停止し、5秒後にスキャンを再開します。

メモリースキャン中に点灯



○スキャン中にキーを押すと、押した番号のメモリーバンク内にあるメモリーチャンネルだけをスキャンします。再度全てのメモリーチャンネルをスキャンするには、CLR を押して一旦スキャンを中止し、再度 FUNC を押しながら ③ を押して、スキャンを開始します。

○再度 FUNC を押しながら ③ を押すと、スキャンの再開する条件をピジースキャン/ホールドスキャン/タイムスキャンから選択することができます。(p.8)

○DIAL ツマミを1クリックまわすとスキャンが一旦停止します。

○スキャンが停止しているときに DIAL ツマミを右方向へ1クリックまわすとメモリーチャンネル番号が大きくなる方向へ、左方向へ1クリックまわすとメモリーチャンネル番号が小さくなる方向へスキャンを再開します。

○スキャンする方向を変更した場合、次にスキャンを開始するときには、この"変更した方向"にスキャンを開始します。

3. CLR を押すとスキャンは中止します。(メモリーモードに戻ります。)

メモリーを使う

メモリーチャンネルの構成

本機では、1000チャンネルのメモリーを100チャンネルずつの10グループに分けて編集することができ、このグループを"メモリーバンク"といいます。このメモリーバンクは、メモリーチャンネル番号の100の桁が、そのままメモリーバンク番号になります。なお、メモリーバンクを切り替えるには、メモリーモード時に FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわします。

メモリーバンク番号



メモリーチャンネル番号

メモリーバンク	メモリーチャンネル	メモリーバンク	メモリーチャンネル	メモリーバンク	メモリーチャンネル	メモリーバンク	メモリーチャンネル
0	000 ~ 099	3	300 ~ 399	6	600 ~ 699	9	900 ~ 999
1	100 ~ 199	4	400 ~ 499	7	700 ~ 799	-	-
2	200 ~ 299	5	500 ~ 599	8	800 ~ 899	-	-

メモリスキャン(2)

希望のメモリーチャンネルだけをスキャンする

下記に示す3種類の方法で、希望するメモリーチャンネルだけをスキャンすることができます。

- ・ 指定したメモリーチャンネルをスキャンする“プリファレンシャルメモリスキャン (PMS)”
- ・ 指定した受信モードが書き込まれているメモリーチャンネルをスキャンする“モードスキャン”
- ・ 指定したメモリーバンク内のメモリーチャンネルをスキャンする“メモリーバンクスキャン”

またこれらのスキャンは“指定したメモリーチャンネルの中で、指定した受信モードが書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンする”というように、2つを組み合わせて使用することもできます。

■プリファレンシャルメモリスキャン (PMS)

指定したメモリーチャンネルだけをスキャンします。

1. メモリーモードにします。(FUNC を押しながら ① を押す)
2. DIAL ツマミをまわし、メモリーチャンネルを選択します。
3. FUNC を押しながら ⑤ を押します。

選択したメモリーチャンネルが指定され、“P”が表示されます。

○再度 FUNC を押しながら ⑤ を押すと、指定を解除することができます。

○手順2)、手順3)を繰り返し、スキャンしたい他のメモリーチャンネルを指定します。

4. メモリスキャンをします。(FUNC を押しながら ③ を押す)
5. FUNC を押しながら ⑤ を押します。

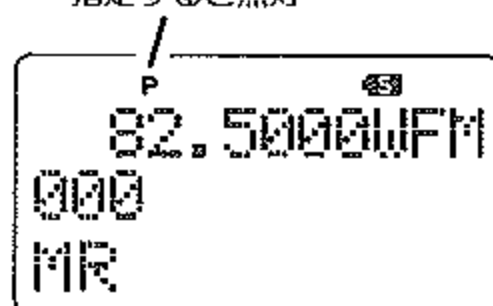
“PMS”が表示され、指定したメモリーチャンネルだけをスキャンします。

○スキャンの動作や停止したときの再開条件などは、前ページの「全てのメモリーチャンネルをスキャンする」と同じです。

○再度 FUNC を押しながら ⑤ を押すと、“PMS”表示が“MS”に変わり、全てのメモリーチャンネルをスキャンするようになります。

6. CLR を押すとスキャンは中止します。(メモリーモードに戻ります。)

指定すると点灯



■モードスキャン

指定した受信モード(電波型式)が書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンします。

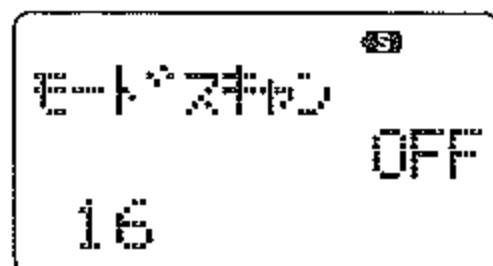
1. VFO モードにします。(CLR を押すとVFOモードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)

3. DIAL ツマミをまわし、セットモード[16:モードスキャン]を選択します。

4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、受信モードを選択します。

○“OFF”を選択すると、全てのメモリーチャンネルをスキャンします。

5. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFOモードになります。)
6. メモリーモードにします。(FUNC を押しながら ① を押す)



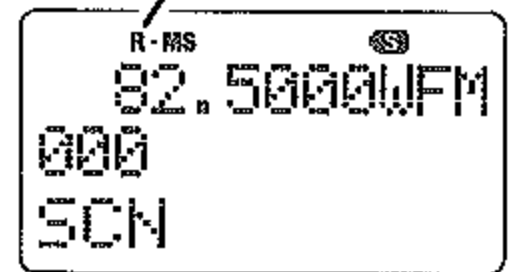
7. メモリースキャンをします。

(**FUNC** を押しながら **3** を押す)

"R-MS" が表示され、指定した受信モード（電波型式）が書き込まれているメモリーチャンネルだけをスキャンします。

○スキャンの動作や停止したときの再開条件などは、13ページの「全てのメモリーチャンネルをスキャンする」と同じです。

モードスキャン時に点灯



8. **CLR** を押すとスキャンは中止します。（メモリーモードに戻ります。）

■メモリーバンクスキャン

指定したメモリーバンク内にあるメモリーチャンネルだけをスキャンします。

1. VFO モードにします。（**CLR** を押すと VFO モードになります。）

2. **FUNC** を押しながら **ENT** を押します。（セットモードになります。）

3. DIAL ツマミをまわし、セットモード[18: バンクリンク]を選択します。

4. **FUNC** を押しながら DIAL ツマミをまわして点滅表示を表示させます。

点滅表示を移動



5. スキャンしたいメモリーバンク番号のキーを押し、メモリーバンク番号の下に "_" を表示させます。

キーを押すごとに、メモリーバンク番号の下に "_" が点灯・消灯を繰り返します。

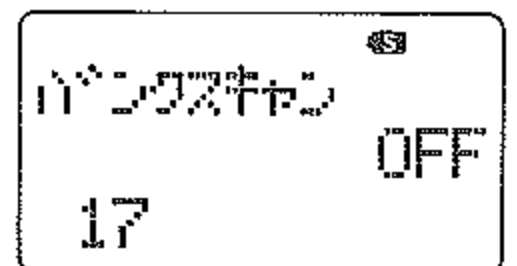
選択したメモリーバンク番号

○手順5) を繰り返すと、複数のメモリーバンクを指定することができます。

6. **ENT** を押して、スキャンするメモリーバンクを確定します。

7. DIAL ツマミをまわし、セットモード[17: バンクスキャン]を選択します。

8. **FUNC** を押しながら DIAL ツマミをまわし、"ON" を選択します。



○"OFF" を選択すると、全てのメモリーチャンネルをスキャンします。

9. **FUNC** を押しながら **ENT** を押します。（VFO モードになります。）

10. メモリーモードにします。（**FUNC** を押しながら **1** を押す）

11. メモリーバンクスキャンをします。（**FUNC** を押しながら **3** を押す）

"MS" が表示され、指定したメモリーバンク内にあるメモリーチャンネルだけをスキャンします。
○スキャンの動作や停止したときの再開条件などは、13ページの「全てのメモリーチャンネルをスキャンする」と同じです。

○スキャン中にキーを押すと、手順5) の指定にかかわらず、押した番号のメモリーバンク内にあるメモリーチャンネルだけをスキャンするようになります。再度指定したメモリーバンク内にあるメモリーチャンネルだけをスキャンを行う場合、**CLR** を押してスキャンを一旦中止し、再度メモリーバンクスキャンを開始します。

12. **CLR** を押すとスキャンは中止します。（メモリーモードに戻ります。）

メモリーを使う

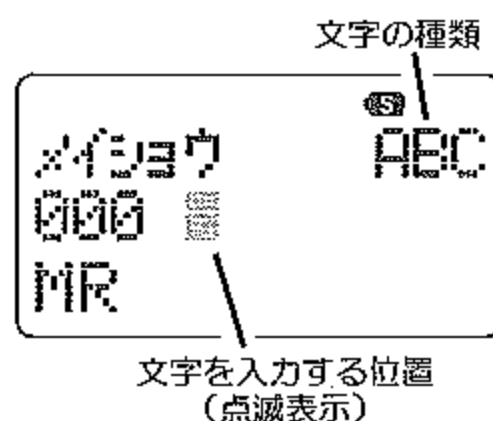
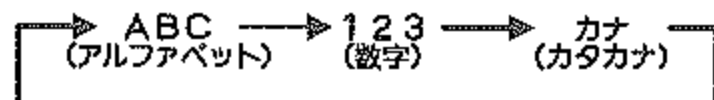
メモリーチャンネルの編集(1)

本機のメモリーをより便利にお使いいただくために、いろいろな機能を備えています。

メモリーチャンネルに名前をつける

メモリーチャンネルに放送局名などの名前をつけることができます（最大8文字）。

1. 名前をつけたいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **FUNC**を押しながら**ENT**を押します。
3. DIAL ツマミをまわして文字の種類を選択します。
DIAL ツマミをまわすと設定できる文字の種類が以下のように切り替わりますので、希望する種類を選択します。



4. キーボードを押して文字を入力します。

キーボードの押しかたによって、下表に示す各種の文字を入力することができます。

《例》 [ウ]を入力する場合：DIAL ツマミをまわして[カナ]を選択し、**①**を3回押します。
[B]を入力する場合：DIAL ツマミをまわして[ABC]を選択し、**②**を2回押します。

キー	選択できる文字		
	ABC	123	カナ
①	Q Z q z	1	アイウエオアイウエオ
②	A B C a b c	2	カキクケコ
③	D E F d e f	3	サシスセソ
④	G H I g h i	4	タチツテトッ
⑤	J K L j k l	5	ナニヌネノ
⑥	M N O m n o	6	ハヒフヘホ
⑦	P R S p r s	7	マミムメモ
⑧	T U V t u v	8	ヤユヨャュョ
⑨	W X Y w x y	9	ラリルレロ
⑩	—	0	ワラン
⑪	! , . # \$ % & ' () * + - /	.	。 。 -

○文字を入力している途中で**FUNC**を押しながら**CLR**を押すと、入力していた文字を全て消去することができます。

5. **FUNC**を押しながらDIAL ツマミを右にまわして、点滅表示を次（右側）の桁に移動させます。

次に入力する文字が違うキー上にあるときは、そのキーを押すと点滅表示は自動的に右へ移動します。

○**FUNC**を押しながらDIAL ツマミを左へまわすと前の桁に戻り、修正をすることができます。

6. 手順3) から手順5) を繰り返し、文字を入力していきます。
7. **ENT**を押すとメモリーチャンネルに名前が書き込まれます。

メモリーモードに戻ります。

○メモリーの書き込みを行うときに、“メモリーチャンネルの書き込み”と“名前の設定”を同時に行うことができます。

- (1) **FUNC**を押しながら**②**を押して、メモリーの書き込み状態にします。
- (2) 上記の手順2) から手順7) の操作を行い、メモリーチャンネルに名前をつけます。
- (3) 再度**FUNC**を押しながら**②**を押して、メモリーの書き込みを完了します。

メモリーチャンネルを名前呼び出す (セットモード 15: メモリーケンサク)

メモリーチャンネルにつけた名前を手がかりにして、メモリーチャンネルを呼び出すことができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわして、セットモード[15: メモリーケンサク]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわします。

名前を設定できる状態になります。

5. 前ページにある『メモリーチャンネルに名前をつける』ときと同じ方法で、呼び出したいメモリーチャンネルの名前を設定します。

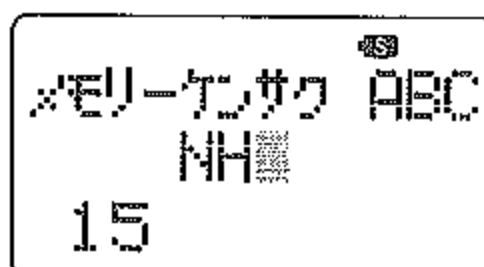
呼び出したいメモリーチャンネルの名前を全て入力しなくても、呼び出すことができます。

例えば、“NHK ダイイチ”という名前のメモリーチャンネルを呼び出す場合に“NH”と設定すると、初めの2文字が“NH”のメモリーチャンネル全て(“NHK ダイイチ”, “NHK ダイニ”, “NHK FM”など)が呼び出されます。

○再度全てのメモリーチャンネルを呼び出すには、セットモード[15: メモリーケンサク]で文字を入力できる状態にしたときに、FUNC を押しながら CLR を押して文字を全て消去すると、呼び出すことができるようになります。

6. ENT を押して確定します。
7. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)
8. メモリーモードにします。(FUNC を押しながら 1 を押す)
9. DIAL ツマミをまわします。

手順 5) で設定した名前のメモリーチャンネルだけが呼び出されます。



メモリーを使う

空いているメモリーチャンネルの数を確認する (セットモード 29: カラメモリー)

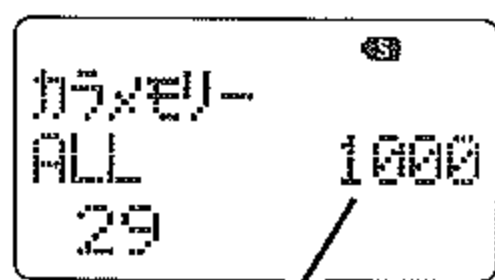
何も書き込まれていないメモリーチャンネルの数を確認することができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわして、セットモード[29: カラメモリー]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、確認したいメモリーバンクを選択します。

空いているメモリーチャンネル数が表示されます。

○“ALL”を選択すると、空いている全てのメモリーチャンネル数が表示されます。

5. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)



空いているメモリーチャンネル数

メモリーチャンネルの編集(3)

メモリーチャンネルの内容をコピーする (セットモード30:チャンネルコピー)

メモリーチャンネルの内容を他のメモリーチャンネルにコピーすることができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すとVFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわして、セットモード[30:チャンネルコピー]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわします。
コピーが可能な状態になります。
5. コピー元のメモリーチャンネル番号 (3桁) をキーボードで入力します。
6. コピー先のメモリーチャンネル番号 (3桁) をキーボードで入力します。
メモリーチャンネルの内容がコピーされます。
○メモリーチャンネルのコピーを続けて行う場合は、手順5)、手順6) を繰り返します。
7. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

チャンネルコピー
[---]>[---]
30

メモリーチャンネルの内容を入れ替える (セットモード31:チャンネルスワップ)

2つのメモリーチャンネル間でメモリーチャンネルの内容を入れ替えることができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すとVFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわして、セットモード[31:チャンネルスワップ]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわします。
入れ替えが可能な状態になります。
5. 入れ替えする2つのメモリーチャンネル番号 (3桁) を続けてキーボードで入力します。
入力が完了すると、メモリーチャンネルの内容が入れ替わります。
○メモリーチャンネルの入れ替えを続けて行う場合は、手順5) を繰り返します。
6. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

チャンネルスワップ
[---]<>[---]
31

メモリーチャンネルの内容を消す

1. メモリーモードにします。(FUNC を押しながら 1 を押す)
2. DIAL ツマミをまわして消したいメモリーチャンネルを選択します。
3. FUNC を押しながら 2 を押します。
"Clear?" が表示されます。
4. 再度 FUNC を押しながら 2 を押します。
メモリーチャンネルの内容が消去されます。
○続けてメモリーチャンネルの内容を消すには、手順2) から手順4) を繰り返します。
●消したメモリーチャンネルの内容は復活させることはできません。
5. CLR を押します。(VFO モードに戻ります。)

82.5000MHz
000 Clear?
MR

メモリーバンク内のメモリーチャンネルをコピーする(セットモード27:バンクコピー)

メモリーバンクの内容を他のメモリーバンクにコピーすることができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すとVFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわして、セットモード[27:バンクコピー]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわします。
コピーが可能な状態になります。
5. コピー元のメモリーバンク番号をキーボードで入力します。
6. コピー先のメモリーバンク番号をキーボードで入力します。
メモリーバンクの内容がコピーされます。
○メモリーバンクのコピーを続けて行う場合は、手順5)、手順6) を繰り返します。
7. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

バンクコピー
[-]→[-]
27

メモリーバンク内のメモリーチャンネルを入れ替える(セットモード28:バンクスワップ)

2つのバンク間でメモリーバンクの内容を入れ替えることができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すとVFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわして、セットモード[28:バンクスワップ]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわします。
入れ替えが可能な状態になります。
5. 入れ替えする2つのメモリーバンク番号を続けてキーボードで入力します。
入力が完了すると、メモリーバンクの内容が入れ替わります。
○メモリーバンクの入れ替えを続けて行う場合は、手順5) を繰り返します。
6. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

バンクスワップ
[-]<>[-]
28

メモリーバンク内の全メモリーチャンネルを消す(セットモード26:バンククリア)

指定したメモリーバンク内にある全てのメモリーチャンネルを一度に消すことができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すとVFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわして、セットモード[26:バンククリア]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわします。
ディスプレイの表示が右のようになります。
5. 消したいメモリーバンク番号をキーボードで入力します。
"Clear..." が表示され、メモリーバンク内のメモリーチャンネルがすべて消去されます。
○他のメモリーバンクを続けて消去する場合は、手順5) を繰り返します。
●消したメモリーバンクの内容は復活させることはできません。
6. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

バンククリア
[-]
26

バンドスコープ

VFOモード時、現在受信中の周波数を中心に、上下の周波数の使用状況をグラフで表示をさせることができます。

1. VFOモードにします。(CLRを押すとVFOモードになります。)

2. BSを押します。

ディスプレイ下部にバンドスコープが表示されます。

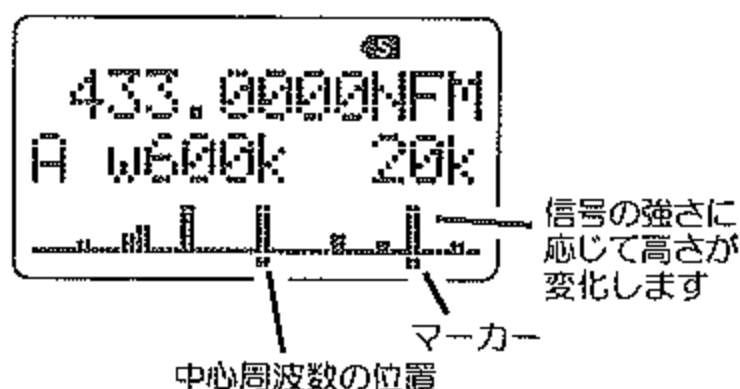
●バンドスコープが動作しているときは、受信音を聞くことができません。

3. DIALツマミをまわして、信号のある位置にバンドスコープ下部のマーカーを移動します。

4. BSを押します。

バンドスコープが解除され、マーカーがある位置の周波数でVFOモードに戻り、信号を受信することができます。

○BSのかわりにCLRを押すと、バンドスコープが解除されて中心周波数のままVFOモードに戻ります。



動作モードについて

本機のバンドスコープはFUNCを押しながら0を押すことで、以下の2つのモードを切り替えて使用することができます。

Aモード

ステップとバ

ンド幅をそれ

ぞれ設定でき

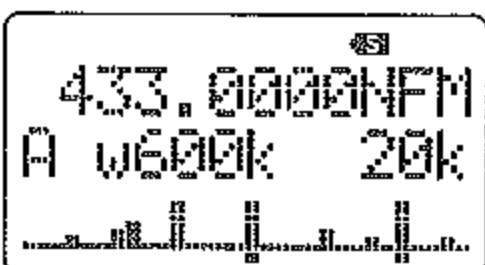
るモードです。

ステップとバ

ンド幅の組み合

わせによって表示するチャン

ネル数が変化します。



バンド幅	ステップ	チャンネル数
600 kHz 540 kHz (ステップ: 9 kHz時)	9 kHz	60
	10 kHz	60
	12.5 kHz	48
	20 kHz	30
	25 kHz	24
	50 kHz	12
	100 kHz	6
300 kHz 270 kHz (ステップ: 9 kHz時)	9 kHz	30
	10 kHz	30
	12.5 kHz	24
	20 kHz	15
	25 kHz	12
	50 kHz	6
	100 kHz	3

Bモード

ステップに合

わせてバンド

幅が変わる

モードです。

選択するス

テップによっ

て、表示するバンド幅が自動的

に設定されます。



ステップ	バンド幅	ステップ	バンド幅
50 Hz	3 kHz	12.5 kHz	750 kHz
100 Hz	6 kHz	15 kHz	900 kHz
1 kHz	60 kHz	20 kHz	1.2 MHz
5 kHz	300 kHz	25 kHz	1.5 MHz
6.25 kHz	375 kHz	30 kHz	1.8 MHz
9 kHz	540 kHz	50 kHz	3 MHz
10 kHz	600 kHz	100 kHz	6 MHz

バンド幅：バンドスコープが動作する周波数範囲を示します。

指定したバンド幅（周波数範囲）をスキャンし、グラフで表示します。

ステップ：バンドスコープの周波数変化量のことを示します。

バンド幅の使用状況を、指定した周波数ステップでスキャンしていきます。

○FUNCを押しながらDIALツマミをまわすと、ステップを変更することができます。

○FUNCを押しながらBSを押すと、バンド幅を選択することができます(Aモードのみ)。

設定した周波数範囲内にある、信号のある周波数を自動的に探し出し、専用のスマートメモリーへ書き込みます。

1. VFO モードで下限周波数にあわせます。
2. **FUNC** を押しながら **5** を 2 秒以上押します。
3. **1** を押します。

下限周波数が設定され、VFO モードに戻ります。

100.00000FM
1:L 2:5 3:U
VFO

4. 手順1) から手順3) と同じ要領で、スマートサーチを始める周波数(スタート周波数)と上限周波数を設定します。

スタート周波数を設定する場合は手順3) で **2** を、上限周波数の場合は **3** を押します。

● 以下の設定ではスマートサーチは動作しません。

- ・ 下限周波数が上限周波数より高い周波数の場合
- ・ スタート周波数が上限周波数と下限周波数の間に設定されていない場合
- ・ スタート周波数と上限周波数、またはスタート周波数と下限周波数の間隔が 100kHz 以下の場合

200.00000FM
1:L 2:5 3:U
VFO

"-" のある周波数が表示されます

5. 再度 **FUNC** を押しながら **5** を 2 秒以上押します。

○ DIAL ツマミをまわすと、設定した周波数を確認することができます。

6. **ENT** を押します。

"Smart Get..." と表示されて設定した周波数範囲内を 1 回サーチし、信号のある周波数をスマートメモリーへ書き込んでいきます。

○ スマートメモリーの数を変更することができます(セットモード [20:スマートサーチCH])。

○ スマートメモリーの全てに周波数が書き込まれるまで、設定した周波数範囲内を何回もサーチさせることができます(セットモード [21:スマートサーチモード])。

200.00000FM
Smart Sweep
SCH.....



- ① スタート周波数から上限周波数方向へサーチしたあと、
- ② スタート周波数から下限周波数方向へサーチします。

工場出荷時のスマートメモリーのチャンネル数は、スタートさせた周波数を中心に、上限周波数側(①)と下限周波数側(②)にそれぞれ 15 チャンネルと、スタートさせた周波数 1 チャンネルの合計 31 チャンネルに設定されています。

7. サーチ終了後、DIAL ツマミをまわすとスマートメモリーに書き込まれた周波数を呼び出すことができます。

○ 呼び出したスマートメモリーの周波数は、通常のメモリーチャンネルやスキップメモリーへ書き込むことができます。

200.00000FM
Smart- 1
SCH.....

8. **CLR** を押すと、スマートサーチは中止します。(VFO モードに戻ります。)

○ 一旦 VFO モードに戻っても、**FUNC** を押しながら **5** を押すと、スマートメモリーに書き込まれた周波数を呼び出すことができます。

● スマートメモリーに書き込まれた周波数は、電源を "OFF" にしても消去されませんが、以下の操作を行なうと消去されます。

- ・ 再度スマートサーチを開始したとき
- ・ 乾電池を取り外したとき
- ・ 乾電池が取り付けられていないときに外部電源を取り外したとき

デュアルレシーブ

■希望する2つの周波数を交互に受信する

1. VFOモードまたはメモリーモードで受信したい周波数にあわせませす。
2. **FUNC**を押しながら**7**を2秒以上押します。
"DWA Write!"と表示されてデュアルレシーブする周波数が設定され、もとの状態(VFOモードまたはメモリーモード)に戻ります。
3. 手順1), 手順2)と同じ要領で、受信したいもう1つの周波数を設定します。
"DWB Write!"と表示されてデュアルレシーブするもう1つの周波数が設定されます。
4. VFOモードにします。(CLRを押すとVFOモードになります。)

◎ 以上で2つの周波数が設定されましたので、以下の操作でデュアルレシーブを開始します。

5. **FUNC**を押しながら**7**を押す、デュアルレシーブを開始します。

"DW"と表示され、2つの周波数を0.2秒ごとに交互に受信します。信号を受信するとデュアルレシーブは一旦停止し、5秒後にデュアルレシーブを再開します。

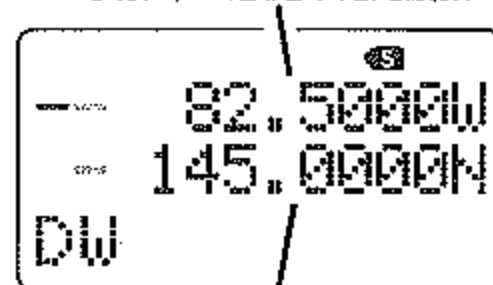
○ **FUNC**を押しながら**7**を押すと、デュアルレシーブの再開する条件が変わります。(p.8)

○ DIAL ツマミをまわすとデュアルレシーブが停止して周波数表示の左側に"→"が点灯し、その周波数を継続して受信することができます。このとき**ENT**を押すと、"→"側の周波数のままVFOモードに戻ります。また、DIAL ツマミをまわすと"→"が交互に切り替わります。

○ DIAL ツマミをまわして停止させたあとに再度デュアルレシーブをする場合は、一旦VFOモードに戻ってから再度**FUNC**を押しながら**7**を押します。

6. **CLR**を押すとデュアルレシーブは中止します。(VFOモードに戻ります。)

手順1)で設定した周波数



手順3)で設定した周波数

■あらかじめ設定されている周波数を呼び出しデュアルレシーブする

①から⑨の各キーには、あらかじめ下表に示す周波数が割り当てられています。これを"デュアルレシーブメモリー"といい、この2つの周波数を呼び出してデュアルレシーブを行うことができます。

デュアルレシーブメモリー番号

1. デュアルレシーブを動作させます。
(**FUNC**を押しながら**7**を押す)
2. 呼び出したいデュアルレシーブメモリー番号のキーを押します。

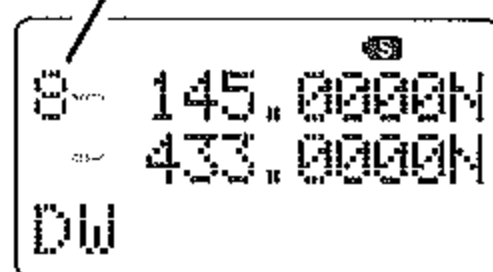
押したキーに割り当てられている周波数が呼び出され、デュアルレシーブを開始します。

○ キーを押すと、押したキーに割り当てられているデュアルレシーブメモリーが呼び出され、デュアルレシーブが再開します。

○ デュアルレシーブの動作や信号を受信して停止

したときの再開条件などは、上記の「希望する2つの周波数を交互に受信する」ときと同じです。

3. **CLR**を押すとデュアルレシーブは中止します。(VFOモードに戻ります。)



キー	周波数範囲 (MHz)	キー	周波数範囲 (MHz)
①	10.0000 AM 100.0000 WFM	⑤	800.0000 WFM 900.0000 NFM
②	200.0000 WFM 300.0000 AM	⑥	128.8000 AM 156.8000 NFM
③	400.0000 NFM 500.0000 WFM	⑦	29.3000 NFM 51.0000 NFM
④	600.0000 WFM 700.0000 WFM	⑧	145.0000 NFM 433.0000 NFM
	800.0000 WFM 900.0000 NFM	⑨	433.0000 NFM 1295.0000 NFM

■設定した2つの周波数をデュアルレシーブメモリーに書き込む

1. 上記の『希望する2つの周波数を交互に受信する』ときと同じ要領で周波数を設定し、デュアルレシーブを開始させます。
2. 割り当てたいキーを2秒以上押します。(指定したデュアルレシーブメモリーに書き込まれます。)

希望する特定の周波数を、5秒間に一度優先的に受信します。

1. 優先的に受信したい周波数を設定します。

VFOモード、メモリーモードのどちらからでも設定することができます。

2. **FUNC** を押しながら **6** を 2秒以上 押します。

"PWM Write!" と表示されて周波数がプライオリティメモリーに書き込まれます。

3. VFOモードにします。

CLR を押すとVFOモードになります。

●メモリーモードからこの機能を動作させることはできません。

4. 常時受信したい周波数を設定します。

◎以上で2つの周波数が設定されましたので、以下の操作でプライオリティワッチを開始します。

5. **FUNC** を押しながら **6** を押します。

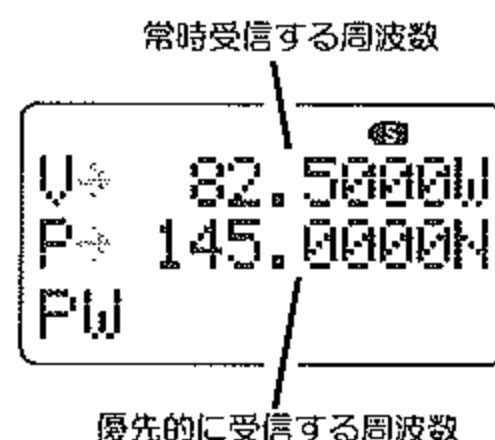
"PW" が表示され、プライオリティワッチが動作します。

○VFOモードで設定した周波数を受信しながら、5秒間に一度
プライオリティメモリーの周波数を受信します。

○プライオリティメモリーの周波数で信号を受信すると、優先
的に受信し、信号がなくなるとプライオリティワッチを再開
します。

6. **CLR** を押すとプライオリティワッチは中止します。

VFOモードに戻ります。



本機をより便利にお使いいただくために、いろいろな機能を備えています。

周波数ステップを変更する (ステップ変更)

DIAL ツマミをまわしたときの周波数変化量 (周波数ステップ) を変えることができます。

1. **[FUNC]** を押しながら **[STEP]** を押します。
2. DIAL ツマミをまわして、希望の周波数ステップを選択します。

○周波数ステップは、次の中から選ぶことができます。なお、DIAL ツマミを右にまわすと、0.05 / 0.1 / 1 kHz の周波数ステップをスキップさせて (呼び出さずに) 選択することができます。

AUTO (自動切替) / **0.05** / **0.1** / **1** / **5** / **6.25** / **9** / **10** / **12.5** / **15** / **20** / **25** / **30** / **50** / **100** kHz

○工場出荷時は、自動的に受信周波数に適したステップに切り替わる“**AUTO**”に設定されています (オートステップ機能)。

オートステップ時の、受信周波数と周波数ステップの関係は、オートステップ・オートモード関係表をご覧ください。 (p.36)

3. **[FUNC]** を押しながら DIAL ツマミをまわすと、ファーストステップ機能の周波数変化量を変えることができます。

○**[FUNC]** を押しながら DIAL ツマミをまわしたとき、点滅している桁の単位で周波数を変化させることができます。

4. **[FUNC]** を押しながら **[STEP]** を押します。 (VFO モードに戻ります。)

ファーストステップの設定位置



周波数ステップ

受信感度を下げる (アッテネーター機能)

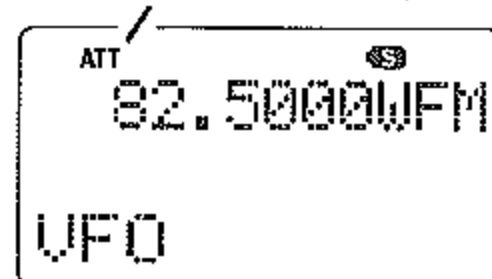
受信信号が強すぎる場合や、近くに強力な信号があり、目的の信号が聞きにくい場合、アッテネーター (ATT) を動作させると聞きやすくなる場合があります。

- [FUNC]** を押しながら **[8]** を押します。

アッテネーター (ATT) を解除するには、再度 **[FUNC]** を押しながら **[8]** を押します。

○アッテネーター (ATT) の減衰量は約 20dB です。

アッテネーター動作時点灯



強い信号だけを受信する (RF スケルチ機能)

Sメーターの指示が、設定した値以上の信号を受信したときのみ、音声を出力させることができます。

1. VFO モードにします。 (**[CLR]** を押すと VFO モードになります。)
2. **[FUNC]** を押しながら **[ENT]** を押します。 (セットモードになります。)

3. DIAL ツマミをまわし、セットモード [19:RF スケルチ] を選択します。

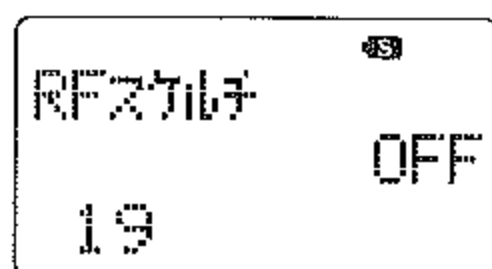
4. **[FUNC]** を押しながら DIAL ツマミをまわし、希望の値に設定します。

Sメーターの指示が設定した値より低い (弱い) 信号では、音声は出力しなくなります。

○“OFF” を選択すると、RF スケルチ機能は解除されます。

5. **[FUNC]** を押しながら **[ENT]** を押します。 (VFO モードに戻ります。)

○RF スケルチ機能が動作しているときには、SQL ツマミは動作しなくなります。



周波数などが変わらないようにする (ロック機能)

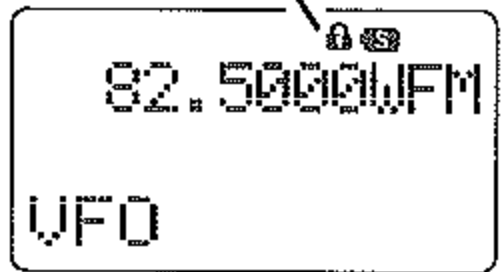
誤ってキーボードやDIAL ツマミに触れても、周波数などが変わらないようにすることができます。

FUNC を押しながら **MONI** を押します。

ロック機能を解除するには、再度 **FUNC** を押しながら **MONI** を押します。

○キーボードだけをロックすることができます (セットモード [2:ロックキノウ])。

ロック時点灯



照明ランプが自動的に点灯しないようにする (ランプ機能)

キー操作をすると自動的にディスプレイとキーボードの照明ランプが5秒間だけ点灯しますが、この機能を "OFF" にすることができます。

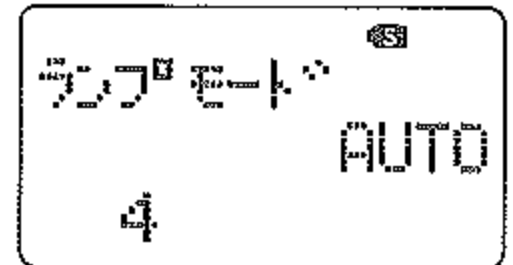
■照明ランプの動作切り替え

1. VFO モードにします。 (**CLR** を押すと VFO モードになります。)
2. **FUNC** を押しながら **ENT** を押します。 (セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわし、セットモード [4:ランプモード] を選択します。
4. **FUNC** を押しながら DIAL ツマミをまわし、"TOGGLE" を選択します。

○ "AUTO" を選択すると、キー操作で自動的に照明ランプが点灯するようになります。

5. **FUNC** を押しながら **ENT** を押します。 (VFO モードに戻ります。)

○ディスプレイの照明だけ点灯させることができます (セットモード [3:ランプ])。



■照明ランプの点灯方法

上記の操作で、自動的に照明ランプが点灯しないようにした場合、以下の方法で照明ランプを点灯します。

FUNC を押しながら **9** を押すと、照明ランプが点灯します。

照明ランプを消灯するには、再度 **FUNC** を押しながら **9** を押します。

リセットのしかた

設定した内容を、初期値 (工場出荷時の状態) に戻すことができます。

なお、リセットのしかたには、システムリセットとオールリセットの2通りがあります。

システムリセット

セットモードの設定やプライオリティメモリーなど、通常のメモリーとスキップメモリーの内容を除く全ての設定値を初期値に戻します。

オールリセット

メモリーの内容も含む、全ての設定値を初期値に戻します。

1. **CLR** を押して VFO モードにし、電源を "OFF" にします。
2. **FUNC** と **MONI** を押しながら電源を "ON" にします。
3. システムリセットをするときには **1** を、
オールリセットをするときには **2** を押します。

1 を押すと "SYS. RESET?" が、**2** を押すと "ALL RESET?" が表示されます。

○ **CLR** を押すとリセットを中止することができます。

4. **ENT** を押します。

"RUN..." と表示したあと、初めに電源を "ON" にしたときと同じ状態になります。



乾電池を長く持たせる (バッテリーセーブ機能)

信号を受信していないときの消費電流を少なくする (セーブする) ことができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわし、セットモード[5:セーブ]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、希望の値に設定します。

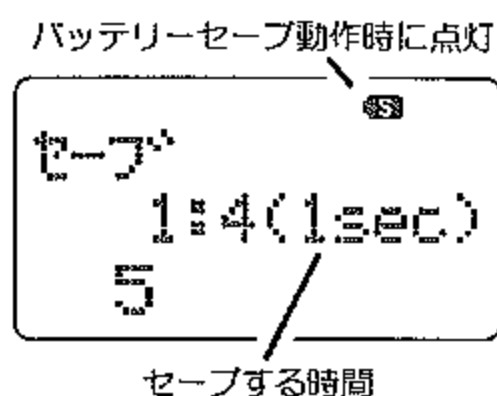
以下の値から選択することができます。

選択項目	受信時間	セーブ時間	選択項目	受信時間	セーブ時間
1:4 (1sec)	0.25 秒	1 秒	1:28 (7sec)	0.25 秒	7 秒
1:12 (3sec)	0.25 秒	3 秒	1:36 (9sec)	0.25 秒	9 秒
1:20 (5sec)	0.25 秒	5 秒	OFF	連続的に受信します。	

○“OFF”を選択すると、バッテリーセーブ機能が解除されます。

○セーブ時間が長いほど、電池を長く持たせることができます。

5. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)



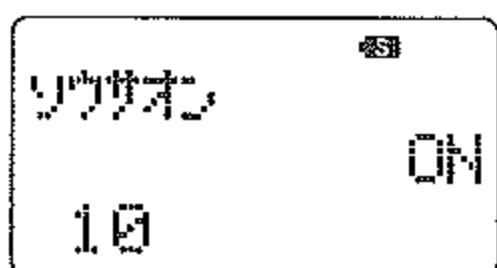
操作音を鳴らないようにする (ビープ音のON/OFF)

キー操作音や、メモリー書き込み時などに鳴る操作確認音などのビープ音を、鳴らないようにすることができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわし、セットモード[10:ソウサオン]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、“OFF”を選択します。

○“ON”を選択すると、ビープ音が鳴るようになります。

5. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

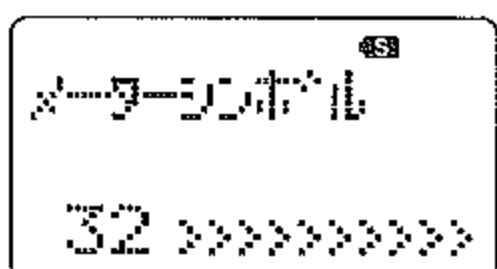
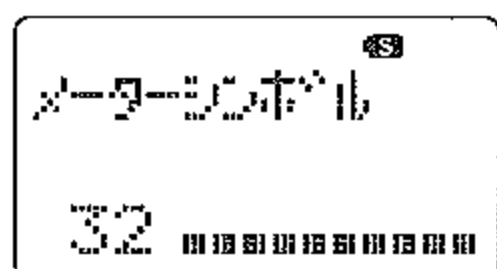
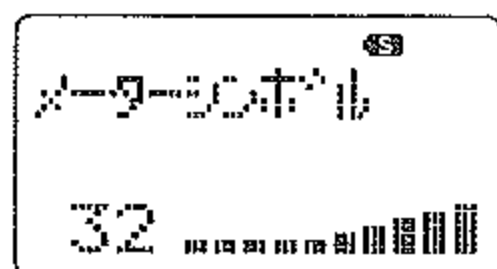


Sメーターの表示パターンを変更する (Sメーターの表示設定)

Sメーターの表示を変更することができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわし、セットモード[32:メーターシンボル]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、希望の表示に設定します。

DIAL ツマミをまわすと以下の表示が順に切り替わります。



5. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

自動的に電源を ON にする (オンタイマー機能)

電源を“OFF”にしたあと設定した時間が経過すると、自動的に電源を“ON”にすることができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわし、セットモード[7:ON タイマー]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、希望の時間に設定します。

DIAL ツマミをまわすと設定時間が 30 分単位で変化し、30 分から 24 時間までの間で設定することができます。

○“OFF”を選択すると、オンタイマー機能は解除されます。

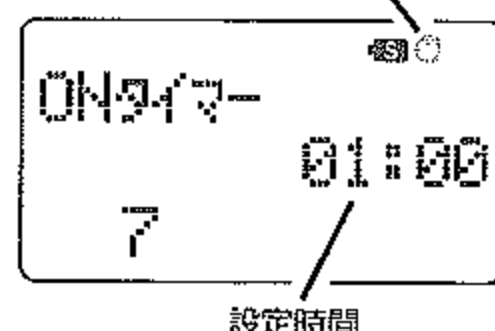
5. FUNC を押しながら ENT を押します。
(VFO モードに戻ります。)

6. PWR を 2 秒以上押して、電源を“OFF”にします。

“オンタイマー機能”が動作し、設定した時間が経過すると、自動的に電源が“ON”になります。

○オンタイマー機能が動作中でも、PWR を 2 秒以上押せば電源を“ON”にすることができます。このときオンタイマー機能は、自動的に解除されます。

オンタイマー機能設定後
電源“OFF”時に点灯



自動的に電源を OFF にする (オフタイマー機能)

設定した時間が経過すると、自動的に電源を“OFF”にすることができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわし、セットモード[6:OFF タイマー]を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、希望の時間に設定します。

DIAL ツマミをまわすと設定時間が以下のように変化し、選択することができます。

OFF → 30 → 60 → 90 → OFF → ...

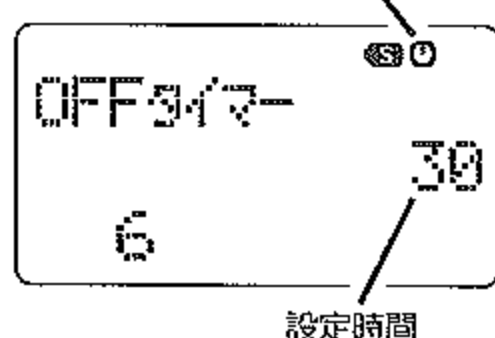
○“OFF”を選択すると、オフタイマー機能は解除されます。

5. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

“オフタイマー機能”が動作し、受信信号や操作の有無にかかわらず、設定した時間が経過すると、自動的に電源が“OFF”になります。

○オフタイマー機能が動作中でも、PWR を 2 秒以上押せば電源を“OFF”にすることができます。このときオフタイマー機能は自動的に解除されます。

オフタイマー機能動作時に点灯



拡張
操作

電源をONにしたときのメッセージを変更する (オープニングメッセージ機能)

電源を "ON" にしたときに表示されるメッセージを変更することができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわし、セットモード [25:メッセージハンシェウ] を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミを1クリックまわします。

メッセージが入力できる状態になります。

5. メッセージを入力します。

以下に示すように、「メモリーチャンネルに名前をつける」ときと同じ要領で、文字を入力していきます(最大8文字)。

- 1) DIAL ツマミをまわして文字の種類を選択します。
- 2) キーを押して文字を入力します。
- 3) FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、点滅表示を次(右)の桁に移動します。
- 4) 手順1) から手順3) を繰り返し、文字を入力していきます。

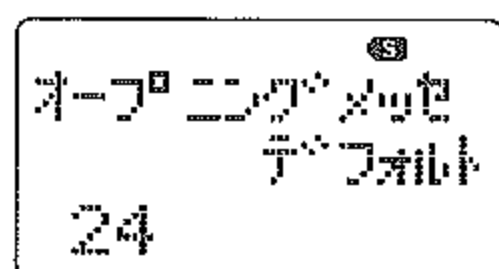


6. ENT を押します。

メッセージが書き込まれ、セットモード番号が選択できる状態になります。

7. DIAL ツマミをまわし、セットモード [24:オープニングメッセ] を選択します。

8. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、「ユーザー」を選択します。



次に電源を "ON" にしたときには、手順5) で入力したメッセージが表示されるようになります。
○ "デフォルト" を選択すると、工場出荷時に設定されている "STANDARD VR-500" が表示されます。

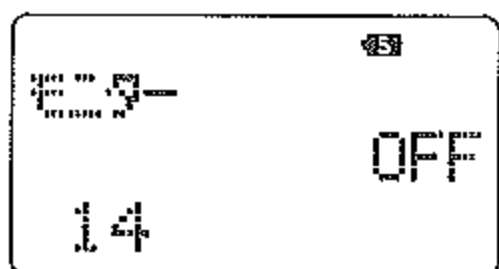
○ "OFF" を選択すると、何もメッセージが表示されません。

9. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

スケルチが開くときのノイズを低減する

信号を受信してスケルチが開いたときの「ポツッ」というノイズを低減することができます。

1. VFO モードにします。(CLR を押すと VFO モードになります。)
2. FUNC を押しながら ENT を押します。(セットモードになります。)
3. DIAL ツマミをまわし、セットモード [14:モニター] を選択します。
4. FUNC を押しながら DIAL ツマミをまわし、「ON」を選択します。



信号を受信してスケルチが開いたときの「ポツッ」音が小さくなります。

○ "OFF" を選択すると、この機能は解除されます。

● この機能を "ON" にすると消費電流が少し増加するので、乾電池の消耗が少し速くなります。

5. FUNC を押しながら ENT を押します。(VFO モードに戻ります。)

セットモードの項目一覧表

セットモードでは、キーを操作したときの音の有無など、各種の設定を行うことができます。

1. VFOモードにします。

CLR を押すとVFOモードになります。

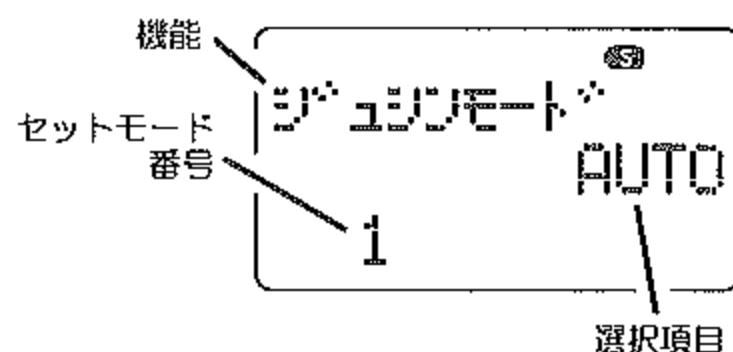
2. **FUNC** を押しながら **ENT** を押します。

セットモードになります。

3. DIAL ツマミをまわして、設定したい セットモード番号を選択します。

4. **FUNC** を押しながら DIAL ツマミをまわし、設定する項目を選択します。

5. **FUNC** を押しながら **ENT** を押して、セットモードを終了します。



番号	機能	動作説明
1	ジュシンモード	モード（電波型式）の切り替え
2	ロックキノウ	DIAL ツマミのロック動作設定
3	ランプ	キーボードとディスプレイの照明ランプ動作設定
4	ランプモード	照明ランプの動作設定
5	セーブ	バッテリーセーブ時間の切り替え
6	OFFタイマー	オフタイマー機能の設定
7	ONタイマー	オンタイマー機能の設定
8	ポーズディレイ	スキャンストップ時間の設定
9	コントラスト	ディスプレイのコントラスト設定
10	ソウリオン	ピープ音の ON/OFF
11	LANGUAGE	セットモードの表示言語の設定
12	サーチモード	周波数サーチの動作切り替え
13	サーチハンイ	サーチバンドメモリーの周波数確認
14	モニター	AFアンプの動作切り替え
15	メモリーケンサク	名前によるメモリーチャンネルの呼び出し
16	モードスキャン	モード（電波型式）を指定したスキャンの動作選択
17	バンクスキャン	メモリースキャンの動作選択
18	バンクリンク	メモリーバンクスキャン時のスキャン範囲指定
19	RFスケルチ	RFスケルチの設定
20	スマートサーチCH	スマートメモリーのチャンネル数選択
21	スマートサーチモード	スマートサーチの動作選択
22	ステップホセイ	周波数ステップを変えたときの補正
23	スタートベルセレクト	電源“ON”時に鳴る、ピープ音の選択
24	オープニングメッセ	電源“ON”時のディスプレイ表示の選択
25	メッセージハンシュウ	電源“ON”時のディスプレイ表示の作成
26	バンククリア	メモリーバンクの消去
27	バンクコピー	メモリーバンクのコピー
28	バンクスワップ	メモリーバンクの入れ替え
29	カラメモリー	空メモリーチャンネルの確認
30	チャンネルコピー	メモリーチャンネルのコピー
31	チャンネルスワップ	メモリーチャンネルの入れ替え
32	メーターシンボル	Sメーターの表示パターン設定

セットモードの機能別一覧表

サーチ・スキャンに関する設定項目	No.	ディスプレイ表示	選択項目
スキャンストップ時間の設定	8	ポーズディレイ	1sec ~ 12sec [5sec]
周波数サーチの動作切り替え	12	サーチモード	<u>VEO</u> / LIMIT
名前によるメモリーチャンネル呼び出し	15	メモリーケンサク	—
メモリースキャンの動作選択	16	モードスキャン	<u>OFF</u> / NFM / WFM / AM / LSB / USB / CW
メモリースキャンの動作選択	17	バンクスキャン	<u>OFF</u> / ON
メモリーバンクスキャンのバンク指定	18	バンクリンク	—

メモリーに関する設定項目	No.	ディスプレイ表示	選択項目
サーチバンドメモリーの周波数確認	13	サーチハンイ	—
メモリーバンクの消去	26	バンククリア	—
メモリーバンクのコピー	27	バンクコピー	—
メモリーバンクの入れ替え	28	バンクスワップ	—
空きメモリーチャンネルの確認	29	カラメモリー	—
メモリーチャンネルのコピー	30	チャンネルコピー	—
メモリーチャンネルの入れ替え	31	チャンネルスワップ	—

スマートサーチに関する設定項目	No.	ディスプレイ表示	選択項目
スマートメモリーのチャンネル数設定	20	スマートサーチ CH	11CH/21CH/31CH/41CH
スマートサーチの動作選択	21	スマートサーチモード	<u>1カイ</u> / レンゾク

ディスプレイ表示に関する設定項目	No.	ディスプレイ表示	選択項目
ディスプレイのコントラスト調整	9	コントラスト	1/14 ~ 14/14 [7/14]
表示言語の選択	11	LANGUAGE	<u>JAPANESE</u> / ENGLISH
電源 ON 時のディスプレイ表示選択	24	オープニングメッセ	OFF / ユーザー / <u>デフォルト</u>
電源 ON 時のディスプレイ表示文字作成	25	メッセージヘンシュウ	—
Sメーター表示パターンの選択	32	メーターシンボル	■ ■ ■ / ■ ■ ■ / > > >

タイマーに関する設定項目	No.	ディスプレイ表示	選択項目
バッテリーセーブ時間の設定	5	セーブ	OFF / <u>1:4</u> / 1:12 / 1:20 / 1:28 / 1:36
オフタイマーの時間設定	6	OFF タイマー	<u>OFF</u> / 30 / 60 / 90
オンタイマーの時間設定	7	ON タイマー	<u>OFF</u> / 00:00 ~ 24:00

ビープ音に関する設定項目	No.	ディスプレイ表示	選択項目
ビープ音の ON/OFF	10	ソウサオン	<u>ON</u> / OFF
電源 ON 時のビープ音選択	23	スタートベルセレクト	OFF / <u>1</u> / 2 / 3

照明に関する設定項目	No.	ディスプレイ表示	選択項目
キーボードの照明点灯条件の設定	3	ランプ	<u>ALL</u> / Display
照明点灯の動作設定	4	ランプモード	TOGGLE / <u>AUTO</u>

その他の設定項目	No.	ディスプレイ表示	選択項目
モード（電波型式）の切り替え設定	1	ジュシンモード	<u>AUTO</u> / MANUAL
ロック条件の設定	2	ロックキノウ	<u>Key+Dial</u> / Key
AF アンプの動作切り替え	14	モニター	ON / <u>OFF</u>
RF スケルチ設定	19	RF スケルチ	<u>OFF</u> / 1 ~ 9
ステップ周波数補正	22	ステップホセイ	<u>ON</u> / OFF

※ 設定できる項目にある下線または [] 内の設定値は、工場出荷時の値です。

セットモードの動作一覧表 (1)

1 ジュシンモード：受信モードの切り替え [初期値：AUTO]

選択項目	AUTO	受信バンドに応じて、自動的に受信モードが切り替わります。
	MANUAL	受信バンドを切り替えても、受信モードは切り替わりません。

2 ロックキノウ：ロック機能の動作設定 [初期値：Key+Dial]

選択項目	Key+Dial	ロック操作を行うと、キーボードとDIALツマミがロックされます。
	Key	ロック操作を行うと、キーボードだけがロックされます。

3 ランプ：照明ランプの設定 [初期値：ALL]

選択項目	ALL	ディスプレイとキーボードの照明が点灯します。
	Display	ディスプレイの照明だけが点灯します。

4 ランプモード：照明ランプの動作切り替え [初期値：AUTO]

選択項目	AUTO	キーを押すと自動的に照明ランプが5秒間点灯します。
	TOGGLE	照明ランプの点灯・消灯は、 (FUNC) を押しながら (9) を押します。

5 セーブ：バッテリーセーブ時間の切り替え [初期値：1:4 (1 sec)]

選択項目	1:4 (1 sec)	250ms 受信して、1秒間受信セーブを行います。
	1:12 (3 sec)	250ms 受信して、3秒間受信セーブを行います。
	1:20 (5 sec)	250ms 受信して、5秒間受信セーブを行います。
	1:28 (7 sec)	250ms 受信して、7秒間受信セーブを行います。
	1:36 (9 sec)	250ms 受信して、9秒間受信セーブを行います。
	OFF	受信セーブ動作は行いません (連続受信)。

6 OFFタイマー：オフタイマー機能の設定 [初期値：OFF]

選択項目	OFF	オフタイマー機能は動作しません。
	30 / 60 / 90	設定した時間が経過すると、自動的に電源が“OFF”になります。

7 ONタイマー：オンタイマーの設定 [初期値：OFF]

選択項目	OFF	オンタイマー機能は動作しません。
	00:30 ~ 24:00	電源を“OFF”にしたあと設定した時間が経過すると、自動的に電源が“ON”になります。(30分単位で設定できます)

8 ポーズデイレイ：スキャンストップ時間の設定 [初期値：5 sec]

選択項目	1 sec ~ 12 sec	サーチ/スキャン/デュアルレシーブ中に信号が入感すると、設定した時間だけ一時停止します (1秒単位で設定できます)。
------	----------------	--

9 コントラスト：ディスプレイのコントラスト設定 [初期値：7/14]

選択項目	1/14 ~ 14/14	設定値が大きいほど、コントラストが強くなります。
------	--------------	--------------------------

セットモードの動作一覧表 (2)

10 ソウサオン：ピープ音のON/OFF [初期値：ON]

選択項目	ON	スイッチ類を押したときに、ピープ音が鳴ります。
	OFF	ピープ音が鳴らなくなります。

11 LANGUAGE：表示言語の選択 [初期値：JAPANESE]

選択項目	JAPANESE	セットモード時の表示言語を“日本語”で表示します。
	ENGLISH	セットモード時の表示言語を“英語”で表示します。

12 サーチモード：周波数サーチの動作切り替え [初期値：VFO]

選択項目	VFO	現在設定してあるVFO周波数からサーチを開始します。
	LIMIT	“サーチバンドメモリー”にメモリーされている周波数範囲をサーチします。

13 サーチハンイ：サーチバンドメモリーの周波数確認

選択項目	—	“サーチバンドメモリー”にメモリーされている周波数範囲を確認することができます。続けて他のセットモードの設定を行うときには、 CLR を押してください。
------	---	---

14 モニター：AFアンプの動作切り替え [初期値：OFF]

選択項目	OFF	通常は“OFF”でご使用ください。
	ON	スケルチが開くときの「ポツッ」というノイズを低減することができます。

15 メモリーケンサク：名前によるメモリーチャンネルの呼び出し

選択項目	—	メモリーチャンネルの名前を手がかりにして、メモリーチャンネルを呼び出すことができます。
------	---	---

16 モードスキャン：メモリースキャンの動作選択 [初期値：OFF]

選択項目	OFF	受信モードに関係なく、全てのメモリーチャンネルをスキャンします。
	NFM	受信モードが“NFM”のメモリーチャンネルだけをスキャンします。
	WFM	受信モードが“WFM”のメモリーチャンネルだけをスキャンします。
	AM	受信モードが“AM”のメモリーチャンネルだけをスキャンします。
	LSB	受信モードが“LSB”のメモリーチャンネルだけをスキャンします。
	USB	受信モードが“USB”のメモリーチャンネルだけをスキャンします。
	CW	受信モードが“CW”のメモリーチャンネルだけをスキャンします。

17 バンクスキャン：メモリースキャンの動作選択 [初期値：OFF]

選択項目	OFF	全てのメモリーチャンネルをスキャンします。
	ON	指定した“メモリーバンク”内のメモリーチャンネルだけをスキャンします。

18 バンクリンク：メモリーバンクスキャン時のスキャン範囲指定

選択項目	—	メモリーバンクスキャンを行うバンクを指定します。
------	---	--------------------------

セットモードの動作一覧表 (3)

19 RF スケルチ : RF スケルチの設定 [初期値 : OFF]

選択項目	OFF	RF スケルチ機能は動作しません。
	1 ~ 9	受信した信号の強さ (Sメーターの振れ) が設定した値以下の場合は、音声を出力しません。

20 スマートサーチ CH : スマートメモリーのチャンネル数の選択 [初期値 : 31CH]

選択項目	11CH / 21CH / 31CH / 41CH	スマートメモリーのチャンネル数が、設定した値になります。
------	---------------------------	------------------------------

21 スマートサーチモード : スマートサーチの動作選択 [初期値 : 1 カイ]

選択項目	1 カイ	1 回だけサーチします。
	レンゾク	スマートメモリーが一杯になるまで繰り返しサーチします。

22 ステップホセイ : ステップ周波数の補正 [初期値 : ON]

選択項目	ON	ステップを変更したとき、モード (電波型式) に適した周波数に補正されます。
	OFF	6.25kHz および 12.5kHz 以外のステップでは、補正が解除されます。

23 スタートベルセレクト : 電源 "ON" 時に鳴る、ピープ音の選択 [初期値 : 1]

選択項目	1	電源を "ON" にすると、"ピッ" とピープ音が鳴ります。
	2	電源を "ON" にすると、"ポピッ" とピープ音が鳴ります。
	3	電源を "ON" にすると、"ピピッ" とピープ音が鳴ります。
	OFF	電源を "ON" にしたとき、ピープ音は鳴りません。

24 オープニングメッセ : 電源 "ON" 時のディスプレイ表示の選択 [初期値 : デフォルト]

選択項目	デフォルト	電源を "ON" にしたとき、『STANDARD VR-500』のメッセージをディスプレイに表示します。
	ユーザー	電源を "ON" にしたとき、セットモード [25: メッセージヘンシュウ] で作成したメッセージをディスプレイに表示します。
	OFF	電源を "ON" にしたとき、メッセージは表示せず、直ちに周波数などをディスプレイに表示します。

25 メッセージヘンシュウ : 電源 "ON" 時のディスプレイ表示の作成

選択項目	—	電源 "ON" 時にディスプレイに表示される、メッセージを作成することができます。
------	---	---

1. **[FUNC]** を押しながら DIAL ツマミを 1 クリックまわします。
2. DIAL ツマミをまわして文字の種類を選択します。
3. キーボードを押して文字を入力します。
4. **[FUNC]** を押しながら DIAL ツマミをまわして、点滅表示を次 (右側) の桁に移動させます。
5. 手順 2) から手順 4) を繰り返し、文字を入力していきます (最大 8 文字)。
6. **[ENT]** を押すとメッセージが書き込まれます。

セットモードの動作一覧表 (4)

26 バンククリア：メモリーバンクの消去

選択項目	-	指定したメモリーバンク内にある全てのメモリーチャンネルを、一度に消去することができます。続けて他のセットモードの設定を行うときには、 CLR を押してください。
------	---	---

27 バンクコピー：メモリーバンクのコピー

選択項目	-	指定したメモリーバンク内にある全てのメモリーチャンネルを、他のメモリーバンクにコピーすることができます。続けて他のセットモードの設定を行うときには、 CLR を押してください。
------	---	---

28 バンクスワップ：メモリーバンクの入れ替え

選択項目	-	指定したメモリーバンク内にある全てのメモリーチャンネルを、他のメモリーバンク内のメモリーチャンネルと入れ替えることができます。続けて他のセットモードの設定を行うときには、 CLR を押してください。
------	---	--

29 カラメモリー：空メモリーチャンネルの確認

選択項目	-	空メモリーチャンネルのチャンネル数を確認することができます。
------	---	--------------------------------

30 チャンネルコピー：メモリーチャンネルのコピー

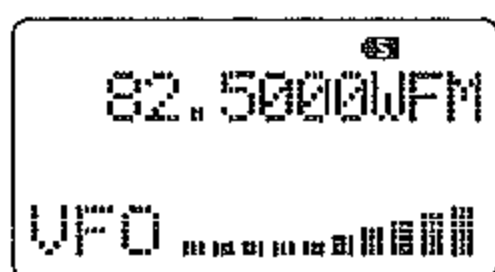
選択項目	-	指定したメモリーチャンネルの内容を、他のメモリーチャンネルにコピーすることができます。続けて他のセットモードの設定を行うときには、 CLR を押してください。
------	---	--

31 チャンネルスワップ：メモリーチャンネルの入れ替え

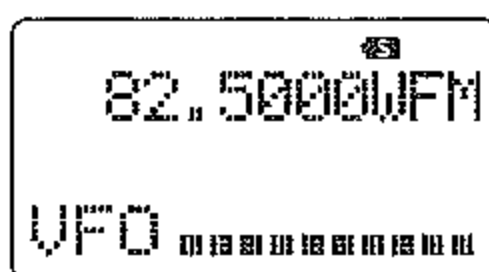
選択項目	-	指定したメモリーチャンネルの内容を、他のメモリーチャンネルの内容と入れ替えることができます。続けて他のセットモードの設定を行うときには、 CLR を押してください。
------	---	---

32 メーターシンボル：Sメーターの表示パターンの設定 [初期値：■■■]

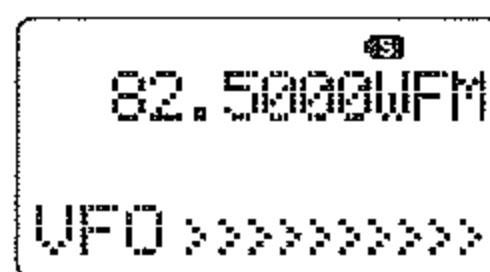
選択項目	■■■ / ■■■ / >>>	Sメーターの表示パターンが、下記のような表示になります。
------	-----------------	------------------------------



設定値が“■■■”のとき



設定値が“■■■”のとき



設定値が“>>>”のとき

メモリー内容や各種設定内容を、他の VR-500 にコピーすることができます。

1. 2 台の VR-500 の電源を“OFF”にし、オプションのクローンケーブル (CT-35) を SP 端子に接続します。
2. 2 台の VR-500 を **1**, **8**, **ENT** を押しながら電源を“ON”にします。
3. 初めに受け側の **1** を押します。
4. 次に送り側の **2** を押します。

1: RX CLONE
2: TX CLONE

データのコピーが開始されます。

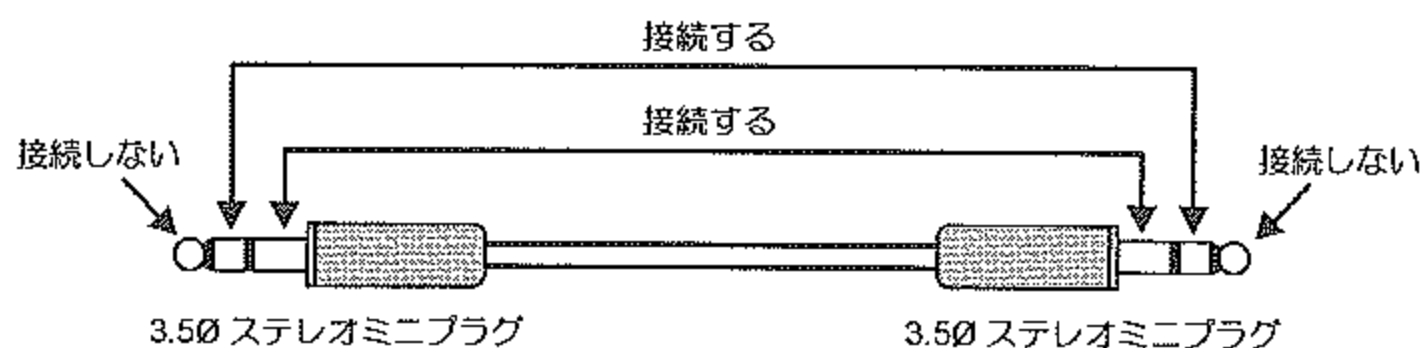
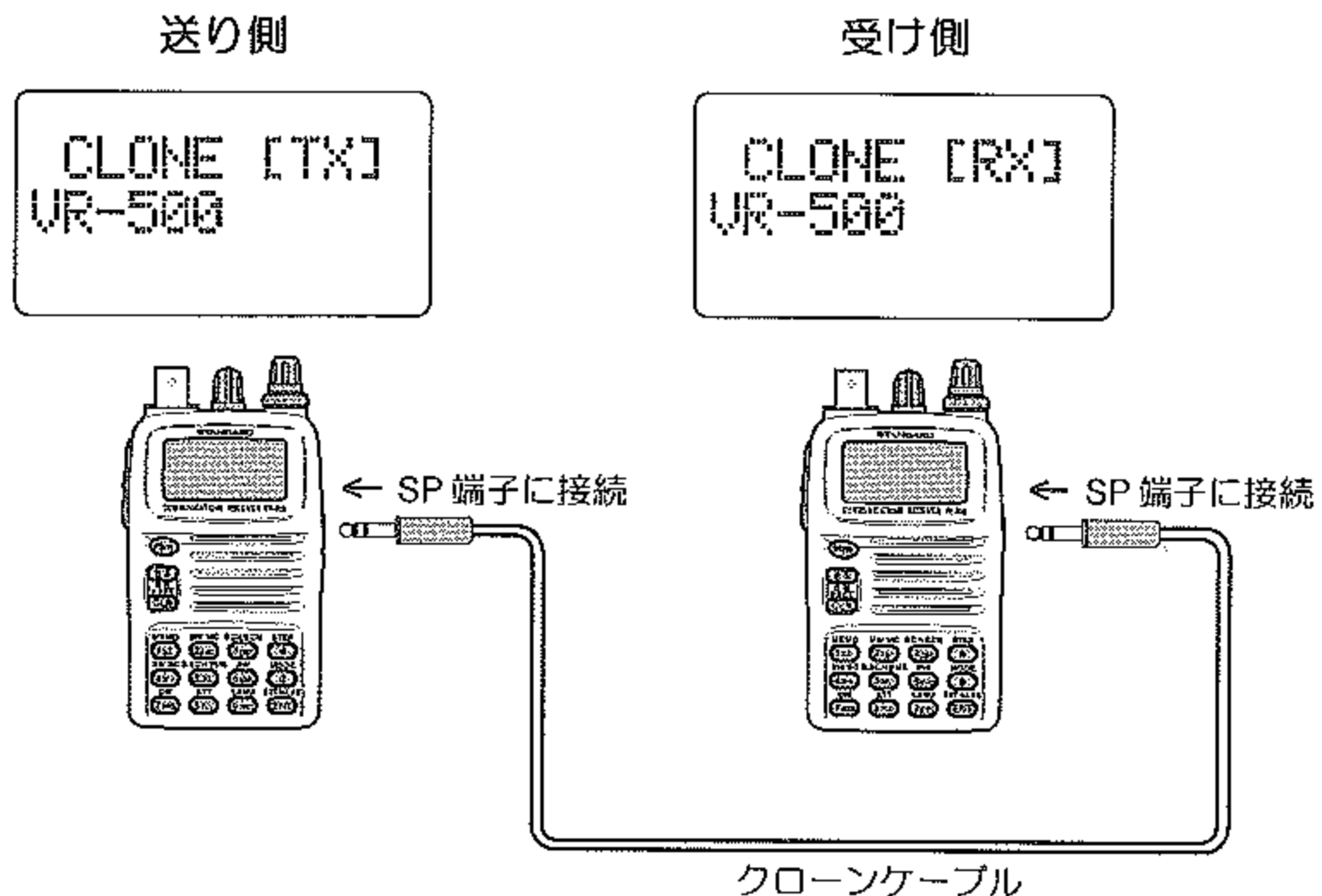
コピーが終了すると、受け側と送り側のディスプレイに“PASS!!”と表示されます。

いずれかのキーを押すと、オープニングメッセージが表示され、通常の状態に戻ります。

○データを転送中に **CLR** を押すとクローンを中止することができます。

○データを転送中、ディスプレイに“ERROR”や“WARNING”などの警告が表示された場合は、クローンケーブルの接続などを確認して、はじめから操作をやり直してください。

5. 2 台の VR-500 の電源を“OFF”にし、クローンケーブルを外します。



クローンケーブル配線図

オートステップ・オートモード関係表

オートステップとオートモード時の周波数と、周波数ステップ・モード（電波型式）の関係は、下表のようになります。

オートモード時にモード（電波型式）を変更し、次にその周波数範囲を呼び出すと、変更したモード（電波型式）が呼び出されます。

なお、この変更したモード（電波型式）は、リセット操作をすると下表の状態に戻ります。

周波数範囲(MHz)	モード (電波型式)	ステップ (kHz)	周波数範囲(MHz)	モード (電波型式)	ステップ (kHz)
0.1000 ~ 0.2850	NFM	1	156.0000 ~ 157.4500	NFM	25
0.2850 ~ 0.5200	AM	1	157.4500 ~ 160.6000	NFM	10
0.5200 ~ 1.6200	AM	9	160.6000 ~ 160.9750	NFM	25
1.6200 ~ 3.5000	AM	5	160.9750 ~ 161.5000	NFM	10
3.5000 ~ 3.5750	LSB	0.1	161.5000 ~ 162.9000	NFM	25
3.5750 ~ 7.0000	AM	5	162.9000 ~ 170.0000	NFM	10
7.0000 ~ 7.1000	LSB	0.1	170.0000 ~ 225.0000	WFM	50
7.1000 ~ 14.0000	AM	5	225.0000 ~ 250.4000	AM	100
14.0000 ~ 14.3500	USB	0.1	250.4000 ~ 253.0000	NFM	12.5
14.3500 ~ 21.0000	AM	5	256.0000 ~ 262.0000	AM	100
21.0000 ~ 21.4500	USB	0.1	267.0000 ~ 270.0000	NFM	12.5
21.4500 ~ 29.0000	AM	5	270.0000 ~ 271.0000	AM	100
29.0000 ~ 35.5300	NFM	10	276.0000 ~ 281.0000	AM	100
35.5300 ~ 51.0000	AM	5	281.0000 ~ 283.0000	NFM	12.5
51.0000 ~ 54.0000	NFM	20	283.0000 ~ 336.0000	AM	100
54.0000 ~ 76.0000	NFM	5	336.0000 ~ 430.0000	NFM	12.5
76.0000 ~ 90.0000	WFM	100	430.0000 ~ 440.0000	NFM	20
90.0000 ~ 108.0000	WFM	50	440.0000 ~ 459.5000	NFM	12.5
108.0000 ~ 136.0000	AM	25	459.5000 ~ 464.8000	WFM	25
136.0000 ~ 138.0000	NFM	10	464.8000 ~ 470.0000	NFM	12.5
138.0000 ~ 142.0000	AM	25	470.0000 ~ 770.0000	WFM	50
142.0000 ~ 144.0000	AM	10	770.0000 ~ 915.0000	NFM	12.5
144.0000 ~ 146.0000	NFM	20	961.0000 ~ 1260.0000	WFM	100
146.0000 ~ 148.0000	NFM	20	1260.0000 ~ 1300.0000	NFM	20
148.0000 ~ 156.0000	NFM	10	—————	—————	—————

周波数範囲	: 100 kHz ~ 1299.99995 MHz (一部の周波数帯を除く)		
アンテナインピーダンス	: 50 Ω		
アンテナ端子	: BNC		
受信周波数ステップ	: 0.05 / 0.1 / 1 / 5 / 6.25 / 9 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 30 / 50 / 100 (kHz)		
メモリーチャンネル数	メモリーチャンネル	1000 チャンネル	
	スキップメモリー	100 チャンネル	
	サーチバンドメモリー	10 チャンネル	
	デュアルレシーブメモリー	10 チャンネル	
	プリセットチャンネルメモリー	79 チャンネル	
	スマートメモリー	11 / 21 / 31 / 41 チャンネル	
	プライオリティメモリー	1 チャンネル	
電波型式	: NFM / WFM / AM / USB / LSB / CW		
受信感度	100 kHz ~ 5 MHz	AM	1.5 μV (10dB S/N)
		SSB,CW	0.6 μV (10dB S/N)
	5 MHz ~ 160 MHz	AM	1.0 μV (10dB S/N)
		SSB,CW	0.5 μV (10dB S/N)
		NFM	0.5 μV (12dB SINAD)
		WFM	1.5 μV (12dB SINAD)
	160 MHz ~ 370 MHz	AM	1.0 μV (10dB S/N)
		SSB,CW	0.5 μV (10dB S/N)
		NFM	0.5 μV (12dB SINAD)
		WFM	1.5 μV (12dB SINAD)
	370 MHz ~ 520 MHz	SSB,CW	0.5 μV (10dB S/N)
		NFM	0.5 μV (12dB SINAD)
		WFM	1.8 μV (12dB SINAD)
	520 MHz ~ 1300 MHz	SSB,CW	0.8 μV (10dB S/N)
		NFM	1.2 μV (12dB SINAD)
		WFM	3.0 μV (12dB SINAD)
	アンテナ不要輻射	: -54 dBm 以下	
電源電圧	: 乾電池使用時 DC 2.2 V ~ 3.5 V (定格電圧 3.0 V)		
	: 外部電源使用時 DC 9.0 V ~ 13.8 V		
使用電池	: 単 3 形マンガン乾電池, 単 3 形アルカリ乾電池		
消費電流	受信時	約 115 mA (オーディオ出力 60 mW, 8 Ω)	
	待ち受け時	約 15 mA (1:4 バッテリーセーブオン)	
	待ち受け時	約 55 mA (セーブオフ)	
スピーカーインピーダンス	: 8 Ω		
オーディオ出力	: 約 90 mW (乾電池使用時)		
	: 約 125 mW (外部電源使用時)		
使用温度範囲	: -10 °C ~ +50 °C		
ケース寸法	: 58 mm(W) × 95 mm(H) × 24 mm(D) (突起物含まず)		
本体重量	: 約 220 g (乾電池, アンテナを含む)		

測定法は JAIA で定めた測定法によります。定格値は常温・常圧時の値です。
本機の外観および定格は、改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

索引

A	
A モード (バンドスコープ)	20
AC アダプターを使う	4
AF アンプの動作切り替え	32
ALL RES (オールリセット)	25
ATT 機能 (アッテネーター機能)	24
B	
B モード (バンドスコープ)	20
BS (ビジーサーチ/ビジースキャン)	8
D	
DIAL ツマミ	6
DIAL ツマミのステップ幅を変える	24
DIAL ロックの設定	25
DW (デュアルレシーブ)	22
E	
EXT DC (外部電源端子)	6
F	
FUNC スイッチ	6
H	
HS (ホールドサーチ/ホールドスキャン)	8
L	
LANGUAGE	32
LOCK スイッチ	6
M	
MONI スイッチ	6
O	
OFF タイマー	31
ON タイマー	31
P	
PMS (プリファレンシャルメモリスキャン)	14
PW (プライオリティーワッチ)	23
PWR スイッチ	6
R	
RF スケルチ	33
RF スケルチ機能	24
RX CLONE	35
S	
SCH (サーチ)	8
SCN (スキャン)	13
SP 端子 (スピーカー端子)	6
SQL ツマミ	6
SYSTEM RES (システムリセット)	25
S メーター	6
S メーターの表示パターンを変更する	26
T	
TX CLONE	35
V	
VFO サーチ	8
VFO モード	7
VOL ツマミ	6
あ	
空いているメモリーチャンネルの数を確認する	17
アッテネーター機能 (ATT)	24
安全上のご注意	1

アンテナを取り付ける	5
お	
オートステップ機能	7
オートモード機能	7
オートモード・オートステップ関係表	36
オープニングメッセ	33
オープニングメッセージ機能	28
オールリセット	25
同じ受信モード (電波型式) がメモリーされている メモリーチャンネルだけをスキャンする	14
オフタイマー機能	27
オプション	3
オンタイマー機能	27
か	
外部電源使用時の注意事項	4
各部の名前と働き	6
カラメモリー (空メモリー)	34
乾電池を入れる	4
乾電池を長く持たせる	26
き	
キー操作早見表	40
希望のメモリーチャンネルだけをスキャンする	14
く	
クリア (CLR)	6
クローン機能	35
こ	
故障かな?と思ったら	表3
コントラスト	28
さ	
サーチ (SCH)	8
サーチしたくない周波数をスキップする	10
サーチの再開する条件	8
サーチモード	32
サーチハンイ (サーチ範囲)	32
サーチバンドメモリー	9
サーチバンドメモリーの周波数確認	32
し	
システムリセット	25
指定した受信モードがメモリーされている メモリーチャンネルだけをスキャンする	14
指定したメモリーバンク内にある メモリーチャンネルだけをスキャンする	15
自動的に電源を ON にする	27
自動的に電源を OFF にする	27
周波数サーチ	8
周波数サーチの動作切り替え	29
周波数ステップを変更する	24
周波数などが変わらないようにする	25
周波数の合わせかた	7
周波数範囲を指定してサーチする	9
受信感度を下げる	24
受信できる全ての周波数をサーチする	8
受信するモード (電波型式) の合わせかた	7
受信前の準備	4
ジュシンモード	31
照明ランプが自動的に点灯しないようにする	25
照明ランプの設定	31
使用時間の目安	4
信号を受信していないときのノイズを消す	6
信号を受信する	7

す	
スキップメモリー	10
スキップメモリークリア	10
スキャンストップ時間の設定	31
スキャンの再開する条件	8
スケルチが開くときのノイズを低減する	28
スタートベルセレクト	33
ステップ (STEP)	24
ステップ変更	24
ステップホセイ (ステップ補正)	33
スピーカー端子	6
全てのメモリーチャンネルをスキャンする	13
スマートサーチ (S.SCH)	21
スマートサーチ CH	33
スマートサーチの動作選択	33
スマートサーチモード	33
スマートメモリーのチャンネル数の選択	33
せ	
セーブ	31
セットモード	29
セットモードの項目一覧表	29
セットモードの機能一覧表	30
セットモードの動作一覧表	31
そ	
ソウサオン (操作音)	32
操作音を鳴らないようにする	26
た	
タイムサーチ	8
タイムスキャン	8
ち	
チャンネルコピー	34
チャンネルスワップ	34
て	
定格	37
ディスプレイのコントラスト設定	31
ディスプレイの説明	6
デュアルレシーブ (DW)	22
電源 "ON" 時に鳴る、ビープ音の選択	33
電源を "ON" にしたときの	
メッセージを変更する	28
電源 "ON" 時のディスプレイ表示の作成	28
電源 "ON" 時のディスプレイ表示の選択	28
な	
名前によるメモリーチャンネルの呼び出し	17
は	
バッテリーセーブ時間の切り替え	26
バッテリーセーブ機能	26
バンククリア	34
バンクコピー	34
バンクスキャン	32
バンクスワップ	34
バンクリンク	32
バンドスコープ (B.S)	20
バンドストラップを取り付ける	5
バンドワイズ (B.W)	20
ひ	
ビジーサーチ	8
ビジースキャン	8
ビープ音の ON/OFF	26

表示言語の選択	32
ふ	
ファーストステップ機能	7
付属品	3
2つの周波数を交互に受信する	22
プライオリティワッチ (PW)	23
プリセットモード	11
プリセットモードの呼び出し	11
プリファレンシャルメモリースキャン (PMS)	14
へ	
ベルトクリップを取り付ける	5
ほ	
ポーズディレイ	31
ホールドサーチ	8
ホールドスキャン	8
ま	
マーカー	20
め	
メーターシンボル	34
メッセージヘンシュウ (メッセージ編集)	33
メッセージ編集のしかた	28
メモリークリア (MC)	18
メモリーケンサク (メモリー検索)	32
メモリースキャン	13
メモリースキャンの動作選択	32
メモリー操作	12
メモリーチャンネルに書き込む	12
メモリーチャンネルに名前をつける	16
メモリーチャンネルの構成	13
メモリーチャンネルの内容をコピーする	18
メモリーチャンネルの内容を入れ替える	18
メモリーチャンネルの内容を消す	18
メモリーチャンネルを名前で呼び出す	17
メモリーチャンネルを呼び出す	12
メモリーバンク	13
メモリーバンクスキャン	15
メモリーバンク内の	
メモリーチャンネルを入れ替える	19
メモリーバンク内の	
メモリーチャンネルを消す	19
メモリーバンク内の	
メモリーチャンネルをコピーする	19
メモリーバンクについて	13
メモリーモード (MEMO)	12
メモリーライト (MW)	12
メモリーを使う	12
も	
モード (MODE)	7
モードスキャン	32
モニター	32
ら	
ランプ	31
ランプ機能	25
ランプモード	31
り	
リセットのしかた	25
ろ	
ロック機能	25
ロックキノウ (ロック機能)	31

キー操作早見表

キー	単独で押す	FUNC を押しながら押す
MONI	押している間だけスケルチ "OFF"	ロック機能の ON/OFF
B.S	バンドスコープ "ON"	バンドスコープのバンド幅切り替え (バンドスコープ [Aモード] 動作時)
CLR	操作の中止	ノーマル/プリセットモード切り替え
1	"1" を入力	メモリーの呼び出し
2	"2" を入力	メモリーの書き込み (VFO モード時) メモリーの消去 (メモリーモード時)
3	"3" を入力	周波数サーチ開始 (VFO モード時) メモリースキャン開始 (メモリーモード時)
4	"4" を入力	スキップメモリーの書き込み (VFO モード時) スキップメモリーの消去 (スキップメモリー呼び出し時)
5	"5" を入力	スマートメモリーの呼び出し 2秒以上押し続けると、スマートサーチの周波数範囲の設定 (ENT を押してスマートサーチ開始)
6	"6" を入力	プライオリティワッチ "ON" 2秒以上押し続けると、プライオリティ周波数の設定
7	"7" を入力	デュアルレシーブ 2秒以上押し続けると、デュアルレシーブ周波数の設定
8	"8" を入力	アッテネーター (ATT) の ON/OFF
9	"9" を入力	照明ランプの ON/OFF
0	"0" を入力	モード (電波型式) の切り替え バンドスコープの動作モード "Aモード/Bモード" 切り替え (バンドスコープ動作時)
.	"." を入力	周波数ステップ/ファーストステップの切り替え
ENT	操作の実行	セットモードへ移行 (VFO モード時) メモリーチャンネルへの名前の書き込み (メモリーモード時)

[プリセットモード時]

キー	単独で押す	FUNC を押しながら押す
MONI	押している間だけスケルチ "OFF"	ロック機能の ON/OFF
B.S	バンドスコープ "ON"	バンドスコープのバンド幅切り替え (バンドスコープ [Aモード] 動作時)
CLR	操作の中止	ノーマル/プリセットモード切り替え
1	"1620 kHz" (交通情報) の呼び出し	—
2	"6.0550 MHz" (ラジオ短波第一) の呼び出し	—
3	"6.1150 MHz" (ラジオ短波第二) の呼び出し	VFO サーチ開始
4	"82.5000 MHz" (FM ラジオ) の呼び出し	—
5	"128.8000 MHz" (航空無線) の呼び出し	—
6	"145.0000 MHz" (アマチュア無線) の呼び出し	—
7	"156.8000 MHz" (海上無線) の呼び出し	—
8	"433.0000 MHz" (アマチュア無線) の呼び出し	アッテネーター (ATT) の ON/OFF
9	"903 5125 MHz" (パーソナル無線) の呼び出し	照明ランプの ON/OFF
0	バンド切り替え	モード (電波型式) の切り替え バンドスコープの動作モード "Aモード/Bモード" 切り替え (バンドスコープ動作時)
.	TV チャンネル (音声) の呼び出し	周波数ステップ/ファーストステップの切り替え
ENT	—	セットモードへ移行

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に、次の事項を確認してください。

電源が入らない

乾電池が消耗していませんか？

AC アダプターまたは電源ケーブルは、外れていませんか？

周波数が変わらない

ロック機能が動作していませんか？

音が出ない

電源は ON になっていますか？

VOL ツマミが反時計方向にまわし切っていませんか？

SQL ツマミが時計方向にまわし切っていませんか？

セットモード[19:RF スケルチ]の設定は適切ですか？

電波型式は合っていますか？

ザーとノイズ音が出る

SQL ツマミが反時計方向にまわし切っていませんか？

MONI を押していませんか？

メモリーに書き込めない

メモリーチャンネルが空いていますか？

プリセットモードになっていませんか？

スキャンやスマートサーチができない

SQL ツマミが反時計方向にまわし切っていませんか？

バンクスキャンを設定してあるとき、セットモードでバンクの指定はしましたか？

アフターサービスについて

◎保証期間はご購入の日より1ヶ年です。

本製品には保証書が添付されています。ご購入いただいた日から1年以内に、取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、無料で修理をお引き受けします。

◎保証書は大切に保管してください。

保証書を紛失しますと、保証期間中に発生した故障でも、保証期間が過ぎたものとして有償扱いにさせていただきますのでご了承ください。

また、販売年月日・販売店名等の必要事項が記入していない保証書も無効扱いにさせていただきますので、ご購入いただきました販売店名・ご購入年月日等が正しく記入されていることを確認のうえ、大切に保管してください。

◎保証期間が過ぎた後に故障した場合は、ご相談ください。

修理により機能が維持できる場合には有償で修理させていただきますので、ご購入いただきました販売店またはお近くの営業所/サービスにご相談ください。

◎梱包箱も大切に保管してください。

修理や点検のために本製品を運搬する場合には、運搬中の事故やトラブルを防止するため、梱包箱を使用して運搬してください。

製品の改良のため、取扱説明書の図面が一部製品と異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お近くの営業所/サービス宛にお願いいたします。また、その際には、必ずセットの製造番号（本体背面に貼ってある銘板に記載してあります）を併せてお知らせください。なお、お手紙をいただくときには、お客様のご住所・ご氏名を忘れずにお書きください。



製造元・株式会社バーテックススタンダード
〒153-8644 東京都目黒区中目黒4-8-8



©2003 株式会社バーテックススタンダード
禁 無断転載・複写